- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期			
3. 開講学部・学科等	全学部全学	<u></u>	4. 授業形態/授業種	eラーニング			
/区分等 5. 授業科目区分/科	王子即王子	14	別	e) =))			
目分野/科目区分/ 区分等	全学共通科	目(学問基礎科目)	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	bcxG			
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	日本語名) 情報のいろは					
名/英文併記	(英文名) V	What is information?					
8. 副題(日本語・英	(日本語名)	情報科学					
語)	(英文名) I	nformation Science					
9. 担当教員名(教員	(日本語) オ	林 敏浩, 藤本 憲市					
ローマ字表記)	(ローマ字)	Hayashi Toshihiro, Fujimo	oto Ken' ichi				
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜				
12. 単位数	2		13. 選必区分/単位区分	選択			
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~2年			
16. 曜日·時限	指定無		17. 講義室				
	自大学	なし		自大学	なし		
18. 履修推奨科目	学生向け	<i>'</i> &C	19. 関連科目(関連科	学生向け	<i>4</i> 0		
10. /6/2/11/2/11/2	連携大学	なし	目コード番号) 	連携大学	なし		
	学生向け			学生向け			
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	情報科学、	認知、コンピュータ、情報化	社会/information science	, cognition, co	mputer, information or	iented	
つ以上5つ以下)	society						
21. 授業概要	情報は我々	の生活を考える上で必ず出	てくるキーワードである。我	さ々が扱ってい	る情報とはどのような		
		本講義では情報を様々な視					
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主 題	本講義では	、情報に関する代表的な視点	点から情報の特徴および関	連する内容を含	2括的に学習する。		
	(1)情報と知	口覚、認知、感覚の観点から					
23. 授業の到達目標	(2)情報科等	学の基礎的な項目(表現、圧	縮、エラー処理、情報量)を	説明できる。			
/学修課題	(3)コンピュ	一タと関連づけて情報を説明	月することができる。				
	(4)インタネ	(4)インタネットを中心に我々がどのように情報に向き合うべきか意見を述べることができる。					

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	(Learning Management and Managemen	:・認知 E 記(1) 情報と2進数 記(2) 様々なメディアの表現 語 テー処理	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	・e-Learningは基本的を心がけてください。各回で課題を課してい。・自学自習時間(準備	的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出) e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 いますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出くださ 情時間30時間+事後学習30時間)	\square
28. 成績評価の方法と基準		各最高5点)と最終課題(1回:最高25点)を採点して合計した得点が60点以上を合の課題の提出回数(最大15回)が10回未満、または、最終課題が未提出の場合はとする。	Ø
29. 再試験の有無	自大学学生向け 連携大学学生向け	なしなし	
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:なし		

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	不明な点がい。	あれば遠慮無く電	子メール	(hayashi.toshihiro@k	agawa−	-u.ac.jp)で問い合わせていただきた			
		書名							
32. 教科書(購入の必要のある図書)	 教科書1	ISBN			著者名				
		出版社		B	出版年				
		金額		仿	備考				
	Г								
		書名							
	 参考書1	ISBN			著者名				
		出版社		В	出版年				
		金額		仿	備考				
33. 教科書・参考書に 関する補足情報		書名							
		ISBN	著者名						
IXI O IIII AC IATA	7.762	出版社	出版年						
		金額	備考						
		書名							
	 参考書3	ISBN		草	著者名				
		出版社		H	出版年				
		金額		仿	備考				
34.Web テ キ スト (URL・説明)		Learning教育支援 ⁻ lla-e.itc.kagawa-u.a		四国(知プラ)ウェブサ	·イト				
				36. 資格等/本科	目受	無し			
35. パソコン必要度	必要			講が必要となる資	格等	教職・その他()			
				/資格取得該当科	得該当科目				
37. 教員相互参観授 業公開日程									
	自大学	日時:金曜1時限	目						
	学生向け	場所:幸町北キャ	ァンパス研	开究交流棟4階教員室	Ē				
38. オフィスアワー		不在時は電子メー	-ル(hayas	shi.toshihiro@kagawa	−u.ac.jp)を利用されたい。			
	連携大学	(zoom等web会議	システム	で対応できる場合の	み)				
	学生向け								
	自大学	不在時あるいは対	す面が困難	雑な場合は電子メール	ル(haya	shi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用			
39. 連絡先/学生相 談場所/学生開示用	学生向け	されたい。							
メール	連携大学	雷子メール(havas	hi toshibir	ro@kagawa-u.ac.jp)を	泛田之	h t-1.)	N		
	学生向け	モリン /V(liayas		Toenagawa u.ac.jp/~	лите	70/20 0			

40. 教員の実務経験	無し	
について		
41. バリアフリー対応	無し	
42. その他/備考	無し	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半			
3. 開講学部·学科等 /区分等	別			授業(e-Lear	受業(e-Learning)90分×8回+自学自習		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/ 区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	dexG	dexG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	地域コンテンツと知財管理	! その1				
名/英文併記	(英文名)	Local Contents and Manager	ment of Intellectual Propert	y first period			
8. 副題(日本語•英	(日本語名)	無し					
語)	(英文名) 無	 ₹L					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	林 敏浩, 藤本 憲市					
ローマ字表記)	(ローマ字)	Hayashi Toshihiro, Fujimot	o Ken' ichi				
10. 時間割コード/申 請コード/授業コード	11. 昼夜						
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	選択			
14. 対象学生	全学部 15. 対象年次/区分等 /標準履修年次 1·2年次/全学部				学部		
16. 曜日・時限	指定無し		17. 講義室				
	自大学	特になし		自大学	無し		
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け	₩ C		
10. 腹疹推关符日	連携大学	特になし	目コード番号)	連携大学	無し		
	学生向け			学生向け	₩ C		
20. 授業のキーワード / 英文キーワード (3	知的財産管	理, コンテンツ, 特許, 企業終	圣営				
つ以上5つ以下)	Intellectual	Property Management, Cont	ents, Patent, Corporate Ma	nagement			
21. 授業概要	₩±±->	ンツを紹介しながら,知的財産	5. 英田の甘琳的知識につい	マ悪羊士ス タ	Z ি 조나왔면 쓰づ드 ` .		
		いった知財管理の基礎的な事		・に 碑我 9 句。1	子回では光明やノブン		
	トの休丧とい	いつに知め 官珪の基礎的な事	∌頃に がくてがのける。				
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主	香川県を中	心とする四国各地のコンテン	ッツ(発明, 商標など)につい	いて知識を得る	ことができる。知的財		
注目/授耒科日の主 題	産管理に関	する基礎知識を習得し、問題	題意識をもって身近な事例に	接することがっ	できる。		
	知的財産管	理の基礎知識を説明し、社	会において地域コンテンツを	を管理する際に	注意すべき点などに		
23. 授業の到達目標 /学修課題	ついて具体	的に述べることができる(共	通教育スタンダードの「21	世紀社会の諸	問題に対する探究能		
	カ」に対応)	0					

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	【授業計画】授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス(授業内容の概要説明を含む) 発明の保護その1(法目的,特許を受ける権利) 2. 発明の保護その2(特許出願) 3. 発明の保護その3(特許権の活用) 4. 発明の保護その4(係争対策) 5. 罰則・雑則,これまでの復習 6. ブランドの保護 7. 知財管理と周辺領域(外国出願.実用新案) 8. 期末レポート 【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるe-Learning教材を,大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には、ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。各回の内容について、理解度を測るため及び出席確認のため、e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので、教科書を必ず購入すること。	2
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	・四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし、成績評価に影響しない。法改正も踏まえ、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。 ・自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)	Z
28. 成績評価の方法 と基準	小テスト(10点×7回)+期末レポート30点により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、期末レポートの提出が成績評定の条件とする。	Z
29. 再試験の有無	自大学学生向け 無し 連携大学学生向け 無し	7
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。 受講人数制限:あり 香川大学 20名、徳島大学 20名、鳴門教育大学 20名、高知大学 20名、愛媛大学 20名 2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。	<u> </u>
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続を済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html	2

		書名	「マンガ	で学ぶ知的財産	管理技能核	定3級最		第3版)」		
32. 教科書(購入の必要のある図書)		ISBN	4862514	146	著者名		佐倉 豪		\square	
女ののの四百)	教科書	出版社	三和書籍	鲁出版	出版年	:	2020			
		金額	2,640円	(紙の本)	備考					
		書名	「マンガ	で学ぶ知的財産	管理技能模	食定2級最	是短マスター」			
	参考書1	ISBN	4862511	198	著者名	:	本間 政憲			
		出版社	三和書籍	鲁出版	出版年	:	2011			
		金額	2,530円		備考					
		書名			<u> </u>					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書2	ISBN			著者名					
IN O I III AC I I TA		出版社			出版年					
		金額			備考					
		書名								
	 参考書3	ISBN			著者名					
	○ 予有 日 ○	出版社			出版年					
		金額			備考					
3 4.Web テキスト (URL・説明)	のLMSへ移動 大学連携e-L	〕」ボタンからシ	辿ることが 援センター	-四国(知プラ)			nagama1 <i></i> gy	o · am// _T		
			36. 資格等/本科目受無し							
35. パソコン必要度	必要。Moodle	eの操作ができる	らこと。	講が必要となる	る資格等		その他()	\square	
				/資格取得該	当科目	72,41%				
37. 教員相互参観授 業公開日程										
	自大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラムにて	問い合わせをす	ること。				\square	
38. オフィスアワー	連携大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラムにて	問い合わせをす	ること。				\square	
39. 連絡先/学生相	自大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラム又は	電子メール(<u>lc_i</u> p	om−c@kaga	wa-u.ac	<u>.jp</u>)		\square	
談場所/学生開示用 メール	連携大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラム又は	電子メール (<u>lc_i</u> p	om-c@kaga	wa-u.ac	<u>.jp</u>)		\square	
40. 教員の実務経験について	無し									
41. バリアフリー対応	無し									
42. その他/備考	無し									

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期後半			
/ 区分寺	全学共通科	目	4. 授業形態/授業種 別	授業(e-Learning)90分×8回+自学自習			
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	dexG	dexG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	地域コンテンツと知財管理	! その2				
名/英文併記	(英文名)	Local Contents and Manager	ment of Intellectual Propert	y second perio	d		
8. 副題(日本語•英	(日本語名)	無し					
== \	(英文名) 無	 ₹し					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	林 敏浩, 藤本 憲市					
ローマ字表記)	(ローマ字)	Hayashi Toshihiro, Fujimot	o Ken' ichi				
10. 時間割コード/申請コード/授業コード	11. 昼夜						
	1		13. 選必区分/単位区分	選択			
14. 対象学生	全学部 15. 対象年次/区分等 /標準履修年次 1~2年次/全学部				全学部		
16. 曜日•時限	指定無し		17. 講義室	義室			
	自大学	特になし		自大学	無し		
18. 履修推奨科目 -	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け	兼し		
	連携大学	特になし	目コード番号)	連携大学	無し		
	学生向け			学生向け	m C		
20. 授業のキーワード / 英文キーワード (3	知的財産管	理、コンテンツ、著作権、企業	業経営				
	Intellectual	Property Management, Cont	ents, Copyright, Corporate	Management			
21. 授業概要	44.4*>>	ナタカ人 し ナンようこ - ケロカカ 日ナ	主笠田の甘醂の勿塾につい	、 て	タロでは ハ・カー ユ ・・・		
		ンツを紹介しながら,知的財					
	て呼びにおり	けるコンテンツやデザインの∱	木퍊といつに知り官理の基値	逆的は事項に、	ひいてとりめける。		
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主	香川県を中	心とする四国各地のコンテン	ンツ(デザイン, コンテンツな	など)についてタ	知識を得ることができ		
	る。知的財産	産管理に関する基礎知識を習	習得し,問題意識をもって身	近な事例に接て	することができる。	Ŋ	
	知的財産管	理の基礎知識を説明し、社	 会において地域コンテンツ?	を管理する際に	注意すべき点などに	V	
23. 授業の到達目標 /学修課題	ついて具体	的に述べることができる(共	通教育スタンダードの「21	世紀社会の諸	問題に対する探究能	V	
	力」に対応)	0					

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	【授業計画】授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス(授業内容の概要説明を含む) 知財法の体系、知財管理の基礎 2. インターネットとデジタルコンテンツ 3. コンテンツの保護その1(著作物と著作者) 4. コンテンツの保護その2(著作者の権利) 5. コンテンツの保護その3(著作隣接権、保護期間、侵害対応) 6. デザインの保護 7. 知財管理と周辺領域(知財法比較、練習問題) 8. 期末レポート 【授業及び学習の方法】 インターネットで配信されるe-Learning教材を、大学のPCルームなどで視聴したうえで学習する。視聴する際には、ノートへの書き取りなど、主体的な態度を心がけなければ、講義を理解することは不可能である。各回の内容について、理解度を測るため及び出席確認のため、e-Learning教材と教科書の内容に基づいた小テストを実施するので、教科書を必ず購入すること。	
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	四国の地域コンテンツに関する調査を目的とした自由課題を公開する。ただし、成績評価に影響しない。法改正も踏まえ、適宜、インターネットや書籍等で情報収集に努めること。 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)	\square
28. 成績評価の方法 と基準	小テスト(10点×7回)+期末レポート30点により評価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、期末レポートの提出が成績評定の条件とする。	\square
29. 再試験の有無	自大学学生向け無し連携大学学生向け無し	
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	パソコンの基本的な使い方など、e-Learning教材を利用するための知識と技術を必要とする。 受講人数制限:あり 香川大学 20名、徳島大学 20名、鳴門教育大学 20名、高知大学 20名、愛媛大学 20名 2018年度以前に「地域コンテンツと知財管理」を単位修得している場合は履修できない。	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続を済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html	

		書名	「マンガ	で学ぶ知的財産	管理技能核	食定3級	最短マスター(第	3版)」		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	an en es	ISBN	4862514	146	著者名		佐倉 豪			
중(())()()()()	│ 教科書 │	出版社	三和書籍	鲁出版	出版年		2020			
		金額	2,640円	(紙の本)	備考					
		書名	「マンガ	で学ぶ知的財産り	管理技能核	食定2級	は最短マスター」			
	 参考書1	ISBN	4862511	198	著者名		本間 政憲			
		出版社	三和書籍	鲁出版	出版年		2011			
		金額	2,530円		備考					
		書名								
33. 教科書・参考書に関する補足情報	 参考書2	ISBN			著者名					
対する研究目形		出版社			出版年					
		金額			備考					
		書名								
	 参考書3	ISBN			著者名					
		出版社			出版年					
		金額			備考					
3 4.Web テキスト (URL・説明)	動」ボタンかり 大学連携e-l	ら辿ることができ	ます。 爰センタ一四	act_kagawa.numi# a国(知プラ)ウェ		gawai	こある「香川大学(JJ LIVIO へ行		
		36. 資格等/本科目受無し								
35. パソコン必要度	必要。Moodle	必要。Moodleの操作ができる		講が必要となる	る資格等		・ その他()		
				/資格取得該	当科目	3279				
37. 教員相互参観授 業公開日程										
	自大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラムにて	問い合わせをすん	ること。				\square	
38. オフィスアワー	連携大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラムにて	問い合わせをすん	ること。				\square	
39. 連絡先/学生相	自大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラム又は	電子メール(<u>lc_ip</u>	m−c@kaga	ıwa=u.a	ac.jp)		\square	
談場所/学生開示用 メール	連携大学 学生向け	Moodle内のフォ	ーラム又は	電子メール(<u>lc_ip</u>	m-c@kaga	ıwa=u.a	ac.jp)		\square	
40. 教員の実務経験について	無し									
41. バリアフリー対応	無し									
42. その他/備考	無し									

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	1 全之共 曲 私 口		4. 授業形態/授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/ 区分等	全学共通科	目主題C	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	ebcG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名) 香川を学ぶ その1					
名/英文併記	(英文名)	Studies on Kagawa Region fi	rst period			
8. 副題(日本語·英	(日本語名)					
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	藤本 憲市, 林 敏浩				
ローマ字表記)	(ローマ字)	Fujimoto Ken' ichi, Hayashi	Toshihiro			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区 分	選択		
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~2年		
16. 曜日·時限	指定なし		17. 講義室			
	自大学	無し		自大学	香川を学ぶ その2	
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け	省川を子ふ ての2	
10. 腹膨胀大行口	連携大学	無し	目コード番号)	連携大学	香川を学ぶ その2	
	学生向け			学生向け	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3)	香川県, 歴	史, 文化, 伝統,				
つ以上5つ以下)	Kagawa pre	fecture, History, Culture, Tra	dition,			
21. 授業概要		することを多視的な側面から	、取りトげて講義する 目体	めにけ 四国	扁路 亜林公園 瀬石	
		史、文化財、及び伝統食の・		.плств, пр	一四,不小公园, 从	
	1 1/14/2012	2, 7, 10,71, 20 Equation				
22. 授業の目的及び	香川県(讃嶋	支)の伝統食や文化財, 香川	県内の産業に関する事柄な	よど, 香川県に	まつわる歴史、文化、	V
主旨/授業科目の主	及び伝統に	関する課題などを理解し、「	地域」に関する知識や関心	・意欲を高める	らことができるようにな	₩
	ることが本授業の目的である。					
	1. 讃岐地方	の歴史や文化を理解できる	る(共通教育スタンダードの	「地域に関する	る関心と理解力」に対	
23. 授業の到達目標	応)。					
/学修課題		の現状について説明するこ	とができる(共通教育スタン	ダードの「広範	な人文・社会・自然に	
	関する知識	」に対応)。				

	3. 地域社会の課題を探求し、その解決策を提示できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題	
	に対する探求能力」に対応)。	
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
	【授業計画】諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。	
	1. ガイダンス(授業概要等), 四国遍路の歴史	
	2. 讃岐の札所と遍路道	
	3. 近世の讃岐国における遍路の実態	
	4. 栗林公園の美と歴史	
26. 授業スケジュール	5. 瀬戸内海運の歴史	
/授	6. 文化財と観光資源論	
業計画並びに授業及 び学習の方法	7. 讃岐の伝統食	
	8. 期末レポート	
	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれる	
	LMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コ	
	ンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その	
	他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-	
27. 授業時間外学習	各回の投業内谷について理解を深めるため、インダーネットや書籍等で適宜情報収集に労めること。e Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。	abla
にかかわる情報	Learningコンプングの税率確認も兼ねて、各国において知識と相及を刊足するためのホテストを誅す。	
	日子日	
28. 成績評価の方法	価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出(受験)していない場合は、期	
と基準	末レポートの提出資格を与えない。	
	自大学学生向け 再試験は実施しない。	
29. 再試験の有無	連携大学学生向け 再試験は実施しない。	
	所属大学において本授業科目の履修が許可され,所定の期日までに履修登録及びMoodle上でのコー	
	ス登録が完了していること。パソコンの基本的な使い方など、e-Learning授業を受講するための知識と	
30. 受講の条件/先	技術(動画視聴, ファイル閲覧, オンラインテスト受験, 課題提出など)を有していること。	
│ 行科目/受講人数制 │ 限		
	受講人数制限:あり	
	香川大学 20名·徳島大学 20名·鳴門教育大学 20名·高知大学 20名·愛媛大学 20名	
	2018年度以前に「香川を学ぶ」の単位を修得している場合は履修できない。	

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	ります。所属 また、履修登 学連携e-Le	本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ(https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html)に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。					Ø	
32. 教科書(購入の必		書名						
要のある図書)	教科書1	出版社金額			著者名 出版年 備考			
					5			
		書名						
	 参考書1	ISBN			著者名			
	参与音 	出版社			出版年			
		金額			備考			
		書名						
33. 教科書・参考書に	***	ISBN 著者名						
関する補足情報	参考書2 	出版社		出版年				
		金額	金額 備考					
		書名						
	会来書?	ISBN			著者名			
	参考書3	出版社			出版年			
		金額			備考			
3 4. Web テキスト (URL・説明)		Learning教育支援· la-e.itc.kagawa-u.a		9国(知プラ)ウェフ	^ず サイト			\square
				36. 資格等/本	科目受			
35. パソコン必要度	必要			講が必要となる資格等 教職・その他()		
				/資格取得該当科目				
37. 教員相互参観授業公開日程								
	自大学 オフィスアワーは設定しないので、電子メール(kgw01-c@kagawa-u.ac.jp)を利用のこと。 学生向け							
38. オフィスアワー	連携大学	(Skype等webで対			l (l 01	-@	田のこ し	
	学生向け	カ フィス F ワー は	政定しなし	いので、電士メール	ν(kgwU1−	c@kagawa−u.ac.jp)を利	州のこと。	Y
	自大学	kgw01-c@kagawa	-u.ac.in					
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用	学生向け	.g y . y chagana						
メール	連携大学	kgw01-c@kagawa	-u.ac.ip					
	学生向け		J.					
40. 教員の実務経験								
について								

41. バリアフリー対応	
42. その他/備考	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期後半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学共通科	目	4. 授業形態/授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	全学共通科	目主題C	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	ebcG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	香川を学ぶ その2				
名/英文併記	(英文名)	Studies on Kagawa Region s	econd period			
8. 副題(日本語·英	(日本語名)	(日本語名)				
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	藤本 憲市, 林 敏浩				
ローマ字表記)	(ローマ字)	Fujimoto Ken' ichi, Hayashi	Toshihiro			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区 分	選択		
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~2年		
16. 曜日·時限	指定なし		17. 講義室			
	自大学	無し		自大学	香川を学ぶ その1	
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科目コード番号)	学生向け	自用を手が (の)	
10. 腹侧距天行口	連携大学	無し		連携大学	香川を学ぶ その1	
	学生向け			学生向け	amero, com	
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	香川県,産	業, 環境				
つ以上5つ以下)	Kagawa pre	fecture, Industry, Environme	nt			
21. 授業概要		することを多視的な側面から	、取りトげて講義する 目体	:的厂(+ 季)))	ニおける産業とまなづ	
		境問題などに関する事柄を		·山川CIG, 日川	に6317の産業にようう	
	() + (), 24		runi / wo			
22. 授業の目的及び	香川県(讃山	支)のまちづくり事例,産業,;	水問題,風水害に関する事	柄など, 香川県	具にまつわる産業及び	V
主旨/授業科目の主	環境に関する課題などを理解し、「地域」に関する知識や関心・意欲を高めることができるようになること					
題	が本授業の	目的である。				
	1. 香川県に	こおけるまちづくり, 産業, 及び	び自然環境について理解で	きる(共通教育	『スタンダードの「地域	
23. 授業の到達目標	に関する関	心と理解力」に対応)。				
/学修課題 	2. 地域社会	の現状について説明するこ	とができる(共通教育スタン	ダードの「広範	な人文・社会・自然に	
	関する知識	」に対応)。				

	3. 地域社会の課題を探求し、その解決策を提示できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題					
	に対する探求能力」に対応)。					
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)						
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)						
	【授業計画】諸事情により授業内容は変更になる可能性があります。					
	1. ガイダンス(授業概要等), まちづくりの事例					
	2. 讃岐の盆栽					
	3. 香川の手袋産業					
	4. 香川の離島の魅力					
26. 授業スケジュール	5. 香川の水を考える					
/授	6. ゲリラ豪雨等災害と避難のシミュレーション					
業計画並びに授業及 び学習の方法	7. 風水害と対策					
	8. 期末レポート					
	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれる					
	LMS (Learning Management System) にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コ					
	ンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど主体的な学習態度を心がけること。その 他受講方法の詳細については、ガイダンスを参照のこと。					
	他受講方法の詳細については、ガイダン人を参照のこと。 各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。e-					
27. 授業時間外学習						
にかかわる情報	Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課す。 ↓ 自学自修(準備学修 15時間 + 事後学修 15時間)					
	・					
28. 成績評価の方法	価し、60点以上の評価により合格とする。ただし、すべての小テストを提出(受験)していない場合は、期					
	 末レポートの提出資格を与えない。					
00 T=1500+m	自大学学生向け 再試験は実施しない。					
29. 再試験の有無	連携大学学生向け 再試験は実施しない。					
	所属大学において本授業科目の履修が許可され,所定の期日までに履修登録及びMoodle上でのコー					
	ス登録が完了していること。パソコンの基本的な使い方など、e-Learning授業を受講するための知識と					
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制	技術(動画視聴, ファイル閲覧, オンラインテスト受験, 課題提出など)を有していること。					
限		\square				
	受講人数制限:あり					
	香川大学_20名·徳島大学_20名·鳴門教育大学_20名·高知大学_20名·愛媛大学_20名					
	2018年度以前に「香川を学ぶ」の単位を修得している場合は履修できない。					

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	ります。所属 また、履修登 学連携e-Le	本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行いません。履修可能人数に制限があります。所属大学における所定の期限内に履修登録を完了できなかった場合は履修を許可しません。また、履修登録とは別にe-Learningシステム(Moodle)上のコース登録も必要です。これらの詳細は、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページ(https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html)に掲載している履修登録の手続き等を熟読のこと。					V	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名 ISBN 出版社 金額			著者名出版年備考			
	参考書1	書名 ISBN 出版社 金額			著者名出版年備考			
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	書名 ISBN 出版社 金額				著者名出版年備考			
	参考書3	書名 ISBN 出版社 金額			著者名 出版年 備考			
34.Web テキスト (URL・説明)		Learning教育支援 la-e.itc.kagawa-u.a		9国(知プラ)ウェフ	^ず サイト			
35. パソコン必要度	必要			36. 資格等/本 講が必要となる /資格取得該当	資格等	教職・その他()	
37. 教員相互参観授業公開日程								
00 +7 17 77	自大学 オフィスアワーは設定しないので、電子メール(kgw01-c@kagawa-u.ac.jp)を利用のこと。 学生向け							
38. オフィスアワー	連携大学 学生向け	(Skype等webで対 オフィスアワーは			レ(kgw01-	c@kagawa−u.ac.jp)を利	用のこと。	
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用	自大学 学生向け	kgw01-c@kagawa	−u.ac.jp					
メール	連携大学 学生向け	kgw01−c@kagawa	−u.ac.jp					\square
40. 教員の実務経験 について								

41. バリアフリー対応	
42. その他/備考	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	前期後半		
3. 開講学部・学科等 /区分等	王字共通科日		4. 授業形態/授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	主題科目C	講義科目	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	ebxG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	香川の文化と歴史				
名/英文併記	(英文名)	英文名) Culture and History of Kagawa				
8. 副題(日本語・英	(日本語名)					
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	藤本 憲市				
ローマ字表記)	(ローマ字)	Ken' ichi Fujimoto				
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	無し		
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1年次生以上		
16. 曜日·時限	無し		17. 講義室			
	自大学	無し		自大学	4 00. I	
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け	無し	
10. 腹侧距天行口	連携大学	無し	目コード番号)	連携大学	 無し	
	学生向け			学生向け	жо	
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3)	香川、瀬戸	内地域、離島、生活文化				
つ以上5つ以下)	Kagawa, Se	touchi Area, Islands of Seto	Inland Sea, Lifestyle and C	Culture		
21. 授業概要	香川の地域	特性のひとつとして、瀬戸内]海とこれにまつわる生活環	環境や文化を挙	げることができる。本	
	科目では、	頼戸内海地域に焦点を絞り、	歴史と生活・習俗について	【概観する。毎[回、各分野・地域の専	
	門家が文化	と歴史にまつわるトピックに	ついて講義をおこなう形式で	ごすすめていく。		
22. 授業の目的及び	瀬戸内地域		ロ見を深めるとともに、同地は	域が抱える課題	運とその解決に向けた	
主旨/授業科目の主 題	取り組みの様態について理解することを目的とする。					\square
23. 授業の到達目標 /学修課題	瀬戸内地域	を中心とした香川の地域的特		できる。		

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)				
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)				
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	第1回 ガイダンス、香川の歴史 第2回 景観論の観点から瀬戸内地域を概観する 第3回 香川における文化振興の現状を理解する 第4回 離島と離島振興について理解する 第5回 香川の島々と瀬戸内国際芸術祭 第6回 伊吹島の事例 第7回 瀬戸内の漁労文化と島の暮らし 第8回 魚食文化について ※ 授業構成の関係上、授業内容が変更・前後することがあります。	V		
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	各回の授業内容について理解を深めるため、各自、インターネットや書籍等で適宜、情報収集に 努めること。 自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)			
28. 成績評価の方法と基準	各回の小テストおよび期末レポートにより評価する。 配点:109点満点(小テスト 64点(各8点×8回)+期末レポート 45点)。 合格基準:109点満点を100点満点に換算した上で60点以上を合格とする。 なお、小テスト未受験回数が3回以上の受講生には、期末レポートの提出資格を与えない。期末レポートを提出しても評価対象としない。 すべての小テスト及び期末レポートはMoodle(LMS)を用いてオンラインで実施する。			
29. 再試験の有無	自大学学生向け 無し 連携大学学生向け 無し	\square		
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	所属大学において本授業科目の履修が許可され、所定の期日までに履修登録及びMoodle上でのコース登録が完了していること。パソコンの基本的な使い方など、e-Learning授業を受講するための知識とスキル(動画視聴、ファイル閲覧、オンラインテスト受験、課題提出など)を有していること。 受講人数制限:あり 香川大学50名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名 2018年度以前に「香川の文化と歴史」(2単位)を単位修得している場合は履修できない。 2019、2020年度に「香川の文化と歴史 その1」、「香川の文化と歴史 その2」のうち少なくともいずれかの単位を修得している場合は履修できない。	V		

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	できるパソコ テンツを視聴	第1回目から第8回目までの受講及び期末試験の受験(レポート提出)はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。				ا 🔽	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名 ISBN 出版社 金額			著者名出版年備考		
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	参考書1	書名 ISBN 出版社 金額 書名 ISBN			著者名出版年備考		
	参考書2	出版社 金額 書名 ISBN 出版社			出版年 備考 著者名 出版年		
3 4. Web テキスト (URL•説明)		金額 Learning教育支援 la-e.itc.kagawa-u.a		3国(知プラ)ウェフ	ザイト		
35. パソコン必要度	必要			36. 資格等/オ 講が必要となる /資格取得該当	資格等	教職・その他()	
37. 教員相互参観授 業公開日程							
	自大学 学生向け				ラム等)に	て問い合わせをすること。	\square
38. オフィスアワー	連携大学学生向け	(Skype等webで対 Moodle内のコミュ			ラム等)に	て問い合わせをすること。	
39. 連絡先/学生相 談場所/学生開示用	自大学 学生向け	kgw-br-c@kagaw	ra−u.ac.jp				\square
談場 が ノ 字 生 開 示 用 メール	連携大学 学生向け	kgw-br-c@kagaw	ra−u.ac.jp				\square

40. 教員の実務経験 について	本科目はオムニバス形式の授業であり、半数以上の授業回を実務経験のある講師(地方公共団体公務員、学芸員等)が担当している。画像や映像、資料等を多用しながら、それぞれの現場での近年の実践事例や調査研究の成果を提示している。	
41. バリアフリー対応		
42. その他/備考		

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	前期前半		
3. 開講学部・学科等 /区分等	全学共通科	目	4. 授業形態/授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目公分/ 区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング			
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	四国の歴史と文化 その1				
名/英文併記	(英文名)	History and Culture of S	Shikoku area first per	iod		
8. 副題(日本語・英	(日本語名)	歴史編				
語)	(英文名)	History				
9. 担当教員名(教員	(日本語)	守田 逸人,林 敏浩,藤本	憲市			
ローマ字表記)	(ローマ字)	MORITA Hayato, Hayashi 7	Toshihiro, FUJIMOTO Kenic	hi,		
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	なし		
14. 対象学生	1年~全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1年~		
16. 曜日·時限	なし		17. 講義室			
	自大学	四国の歴史と文化 その		自大学	四国の歴史と文化・	その2
10 层板堆将到口	学生向け	2 文化編	19. 関連科目(関連科	学生向け	文化編	
18. 履修推奨科目	連携大学	四国の歴史と文化 その	目コード番号)	連携大学	四国の歴史と文化・	その2
	学生向け	2 文化編		学生向け	文化編	
20. 授業のキーワード / 英文キーワード (3	四国、瀬戸	内海、香川県、歴史、				
つ以上5つ以下)	Shikoku are	a, The Seto Inland Sea, Kag	awa prefecture, History,			
21. 授業概要	四国の歴史	・文化について講義する。名	各回では、四国で活躍した。	人々の事績や、	、都と四国との結びつ	
	き、四国に死	浅された遺跡・史跡、各地の2	方言、四国に関わる文学作	品など、四国の	の歴史・文化に関わる	\square
	テーマを取り	り上げる。				
	四国の各大学に在籍する自分が暮らす地域の歴史と文化について知識を得ることができる。歴史に関					
	わる回では	、現代的課題でもある四国地	地域と京阪神地域との結び	つきなどについ	て、理解を深めること	
22. 授業の目的及び	もできる。文	化に関わる回では、四国の	風土や歴史に関わった文学	や方言の内実	ミについて、いくらか知	
主旨/授業科目の主 題	ることができ	÷ る 。				
	本授業での	学習を通じて、香川を含む四	国地域に関する知識や関	心・意欲を高め	るとともに、四国の歴	
	史と文化に	関する研究の背景や現状に	ついて説明できるよ う になる	ことが目標であ	ある。	

23. 授業の到達目標 /学修課題 24. ディプロマ・ポリシー(卒業時のの到達念・ でを発動をである項目) 25. カリキュラムマップ(授業科目の到達目のとカリキュラムマップ)	 四国地域の「歴史と文化」についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 	
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	【授業計画】 ① ガイダンス(授業概要、受講方法等について) 平安末阿波武士と仏教文化 (大石 雅章/鳴門教育大学理事・副学長(教育・研究担当)) ② 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(1) (田中健二 /香川大学教育学部) ③ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(3) ⑤ 中世の瀬戸内海水運(1) (田中健二 /香川大学教育学部) ⑥ 中世の瀬戸内海水運(1) (田中健二 /香川大学教育学部) ⑥ 中世の瀬戸内海水運(2) ⑦ 阿波商人の活躍と江戸時代の経済(桑原恵/徳島大学総合科学部) ⑧ 期末レポート 【e-Learning科目の履修登録に際して】 本講義はフルオンデマンドで実施されるため、講義室での授業は行わない。また、科目によって受講制限をかける場合がある。なお、教務システム(ドリームキャンパス)の履修登録とは別にe-Learningシステム(LMS)の登録が必要なので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に登録手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html 【自学自習について】	
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課している。しっかり復習してから小テストを受験すること。 自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)	\square
28. 成績評価の方法 と基準	授業毎の小テスト(7回:各6点満点)と期末レポート課題(1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。	\square
29. 再試験の有無	自大学学生向けなし連携大学学生向けなし	

30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	なし 受講人数制限 香川大学 <u>80</u> 名		育大学 <u>14</u> 名·高知大学 <u>14</u> 名·	愛媛大学 <u>14</u> 名	\square				
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	* 2018年度」	以前に「四国の歴史と文化」	こ「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できない。						
	特に指定しな	ru',							
		書名							
32. 教科書(購入の必要のある図書)	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	ISBN	著者名						
文 4 7 6 7 6 1 6 7	教科書1 - -	出版社	出版年						
		金額	備考						
		書名							
	 参考書1	ISBN	著者名						
		出版社	出版年						
33. 教科書・参考書に 関する補足情報		金額	備考						
		書名							
	参考書2	ISBN	著者名						
		出版社	出版年						
		金額	備考						
		書名							
	 参考書3	ISBN	著者名						
		出版社	出版年						
		金額	備考						
34.Web テキスト (URL・説明)		_earning教育支援センター№ a−e.itc.kagawa−u.ac.jp/	9国(知プラ)ウェブサイト		\square				
			36. 資格等/本科目受	なし					
35. パソコン必要度	必要		講が必要となる資格等	教職・その他()					
			/資格取得該当科目	子X4成 (0) IE (
37. 教員相互参観授 業公開日程									
20 +7/770_	自大学 学生向け	特に設けない。電子メール	(rekishil-c@kagawa-u.ac	e. jp)を利用すること。	\square				
38. オフィスアワー	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる 特に設けない。電子メール	場合のみ) (rekishi1-c@kagawa-u.ac.jp	 う)を利用すること。					
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用メール	自大学 学生向け	rekishi1-c@kagawa-u.ac.jp			\square				

	連携大学 学生向け	rekishi1-c@kagawa-u.ac.jp	\square
40. 教員の実務経験			
41. バリアフリー対応			
42. その他/備考			

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	前期後半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学共通科	目	4. 授業形態/授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	ebxG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	四国の歴史と文化 その2				
名/英文併記	(英文名)	History and Culture of Shiko	ku area second period			
8. 副題(日本語・英	(日本語名)	文化編				
語)	(英文名)	Culture				
9. 担当教員名(教員	(日本語)	渡邊史郎 林敏浩 藤本憲市	7			
ローマ字表記)	(ローマ字)	Watanabe Shiro, Hayashi T	oshihiro, Fujimoto Kenichi			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	無し		
14. 対象学生	1~ 全学部	3	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~/全学部		
16. 曜日·時限	無し		17. 講義室			
	自大学	四国の歴史と文化 その		自大学	 無し	
18. 履修推奨科目	学生向け	1 歴史編	19. 関連科目(関連科	学生向け	жо	
10. /6/2/11/2/11/2	連携大学	無し	目コード番号)	連携大学	 無し	
	学生向け	,,,,C		学生向け	70	
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	四国 文化	漢文 文学 方言学/shiko	ku, culture, chinese classic	s, literature, o	dialectology	
21. 授業概要	四国の文化	について講義する。各回では	は、四国に関わる文学作品な	などに関わるテ	·一マを取り上げる。	Ø
	四国の風土	や歴史に関わる文学や方言	言についていくらかの知識を	そ得ることで、自	目らが暮らす地域につ	\square
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主	いて深く知る	らきっかけをつくることは重要	である。本授業での学習を	通じて、香川を	含む四国地域に関す	
題	る知識や関	心・意欲を高めるとともに、「	四国の歴史と文化に関する	研究の背景や	現状について説明で	
		ることが目標である。				
23. 授業の到達目標		ぱの文化についてのいくつかん		る。(共通教育ス	スタンダードの「広範な	
/学修課題		自然に関する知識」に対応)		1 18-1-7		
	2. 地域の歴	歴史と文化に関心を持ち、自	己と関連つけて埋解するこ	とができる。(:	共通教育スタンダード	

	の「地域に関する関心と理解力」に対応)	
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	1 ガイタンス、四国の文化に向けて(渡邊史郎/香川大学教育学部) 2 四国の万葉集と古代史 (田中省造/四国大学文学部) 3 讃岐における崇徳院と西行の物語――『雨月物語』「白峯」を中心に――(北原圭一郎/香川大学育学部) 4 石碑の持つ意味――屋島の石碑を題材に―― (池田恭哉/香川大学教育学部) 5 物理学者・寺田寅彦の文学 (永橋 禎子/高知県立文学館) 6 黒島傳治と壺井栄におけるプロレタリア文学の側面(渡邊史郎/香川大学教育学部) 7 愛媛を歩く――方言の旅―― (清水史/愛媛大学法文学部) 8 期末レポート(オンライン) ※各回の担当者の所属については、コンテンツ収録当時のものです。	教
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを設ている。しっかり復習してから小テストを受験すること。 自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)	L Z
28. 成績評価の方法 と基準	授業毎の小テスト(7回:各6点満点)と期末レポート課題(1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、合計得点に関わらず「不可」の評定とするまたレポートに剽窃が認められた場合も「不可」となる。	
29. 再試験の有無	自大学学生向け無し	
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	連携大学学生向け 無し 受講人数制限:あり 香川大学80名・徳島大学14名・鳴門教育大学14名・高知大学14名・愛媛大学14名 2018年度以前に「四国の歴史と文化」を単位修得している場合は履修できない。	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	本授業はフルオンデマンドのe-Learning形態で実施するため講義室での対面授業は行わない。詳細大学連携e-Learning教育支援センター四国ホームページ(https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/)にあり、 「知プラe科目の履修案内」に記載されているので必ず熟読のこと。 本授業を履修するためには、各自パソコンからMoodle (LMS)への登録が必要となる。登録は期限内完了すること。もし期限内に登録が完了していない場合は履修を許可しない。また、受講方法の詳細ついては第1回(ガイダンス)で説明しているので必ず視聴すること。 各回の授業内容について理解を深めるため、書籍等を用い自主的・主体的に学習に努めること。 期末レポートについては、第1回のレポートに関するガイダンスをよく理解して取り組むこと。特にどのうなものが剽窃に当たるかを厳密に理解すること。	ã c c

		書名								
32. 教科書(購入の必要のある図書)		ISBN			著者名					
安のの公凶者)	教科書1	出版社			出版年					
		金額			備考					
		書名								
	4 4 4 4	ISBN			著者名					
	参考書1	出版社			出版年					
		金額			備考					
		書名								
33. 教科書・参考書に	A-1-1-	ISBN			著者名					
関する補足情報	参考書2	出版社			出版年					
		金額			備考					
		書名								
	参考書3	ISBN			著者名					
		出版社			出版年					
		金額			備考					
			1	<u> </u>						
34.Web テキスト (URL・説明)	大学連携e-	Learning教育支援	センター四	3国(知プラ)ウェブナ	サイト					
	https://chip	la-e.itc.kagawa-u.	ac.jp/							
				36. 資格等/本科目受						
35. パソコン必要度	必要			講が必要となる資格等 教職・その他())			
				/資格取得該当和	科目					
37. 教員相互参観授 業公開日程										
	自大学	dt. ==								
	学生向け	特に設けない。								
38. オフィスアワー	連携大学	(Skype等webで	対応できる	場合のみ)						
	学生向け									Ш
	自大学									
39. 連絡先/学生相	学生向け	rekishi2-c@kagav	wa-u.ac.jp							
談場所/学生開示用 メール	連携大学									
	学生向け	無し								
40. 教員の実務経験	講師陣に、こ	文学館に勤務する	方を迎えて	ているため、地域に	おける文	化政	策の方向性	について	も考える	
について	ことが出来る	らだろう。								
41. バリアフリー対応										
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,										
42. その他/備考										

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学共通科	·目	4. 授業形態/授業種別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/ 区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング			
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	四国の自然環境と防災	その1			
名/英文併記	(英文名)	Natural Environment and Dis	aster Measures of Shikoku	Area, First Pe	riod	
8. 副題(日本語•英	(日本語名)					
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	寺尾 徹, 林 敏浩,藤本 憲	市			
ローマ字表記)	(ローマ字)	Terao Toru, Hayashi Toshi	hiro, Kenichi FUJIMOTO			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	なし		
14. 対象学生	1~2年全学	:部	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1・2年次/全学部		
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室			
	自大学	特になし		自大学	#±1-+>1	
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け	特になし	
10. 腹廖雅关符日	連携大学	特になし	目コード番号)	連携大学	特になし	
	学生向け			学生向け	1110-80	
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	四国、自然	、地質、水資源と気候、海洋				
つ以上5つ以下)	Shikoku Isla	nd, Nature, Geology, Water I	Resource and Climate, Oce	an		ı
	四国に学び	生活しているが、本当に四国	国のことを知っていると言え	るだろうか。何	気なく見逃している四	
21. 授業概要		すがたを科学することで見え				
	物語る壮大	な四国形成史のドラマ。豪雨	前地帯と乾燥地帯の同居す	る島に生きる人	、々の水資源を求める	
	知恵のかず	かず。瀬戸内の自然環境の	魅力と里海再生のとりくみ。	。21世紀の四国	国を展望するための視	
1-2 111	点の数々を	提供する講義群である。				
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主		自然の特徴と魅力を学ぶこ	とで「地域」を理解し、防災・	や環境の保全、	地域の活性化にも活	
題	かせるように					
	_	€の現状と課題に関心を持ち ・		ることができる	(共通教育スタンダー	
23. 授業の到達目標		:関する関心と理解力」に対応 	_ · ·			
/学修課題 		目然を地球誌の中にとらえ直	[す視点の転換を体験する	(共通教育スタ	ンダードの「広範な人	
	文・社会・自	然に関する知識」に対応)。				

		を力を見出し、地域社会に活かせるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社							
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)	会の諸課題に対する								
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)									
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	(1)ガイダンス / ガ (2)四国の河川環境 (3)四国の気候と水道 (4)讃岐の地形と地質 第2部:瀬戸内海の環 (5)四国の国立公園 (6)瀬戸内海の浅海								
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	兼ねて、各回において ストを受験してください	項について書籍等により調べておきましょう。e-Learningコンテンツの視聴確認も て知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テ い。 8時間+事後学習22時間)							
28. 成績評価の方法 と基準		回:各6点満点)と期末レポート課題(1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合格 ストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。	\square						
29. 再試験の有無	自大学学生向け 連携大学学生向け	無し 無し							
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限		島大学 50名・鳴門教育大学 50名・高知大学 50名・愛媛大学 50名 国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。	\square						
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	LMS(Learning Manag ンテンツを視聴する隙	までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれる rement System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コ 除は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。そ IIこついては、第1回(ガイダンス)を参照されたい。							

		書名							
32. 教科書(購入の必要のある図書)	*L 5.1 = 1.2	ISBN			著者名				
文》()()()四百/	│ 教科書1 │	出版社			出版年				
		金額			備考				
			1						
		書名							
	参考書1	ISBN		:	著者名				
		出版社			出版年				
		金額			備考				
		書名							
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	参考書2	ISBN		;	著者名				
対する神化は批	9796	出版社			出版年				
		金額			備考				
		書名							
	参考書3	ISBN			著者名				
	多有音0 	出版社	出版社 出版年						
		金額			備考				
	https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/subject_kagawa.html#subject_kagawaにある「香川大学のLMSへ移動」ボタンから辿ることができます。								
3 4.Web テキスト (URL•説明)									
(ONE INGO)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/								
	36. 資格等/本科目受								
35. パソコン必要度	 必要。Moodleの操作ができること。								
				/資格取得該当和	4目				
37. 教員相互参観授 業公開日程									
	自大学								
	学生向け	電子メール (shize	en−c@kaga	awa-u.ac.jp)を利用し	してくださ	۲۱۰°			
38. オフィスアワー	連携大学	(Skype等webで対							
	学生向け	電子メール (shize	en-c@kaga	awa-u.ac.jp)を利用し	してくださ	۲۱۰.			
	自大学	shizen-c@kagawa							
39. 連絡先/学生相 談場所/学生開示用	学生向け	Shizen-C@kagawa	a u.ac.jp						
メール	連携大学	shizen-c@kagawa	a-u ac in						
	学生向け	31112011 O@Ragawa	a u.ao.jp						
40. 教員の実務経験	中央省庁や	地方自治体等の写	実務経験σ)ある教員が、地域(の自然理	環境の係	全等に取り組んできた経験		
について	を生かし、瀬	[戸内地域の自然]	環境の考察	察力を身につけるた	めの教育	育を行っ	ている。		
41. バリアフリー対応									
42. その他/備考									

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期後半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学共通科	·目	4. 授業形態/授業種別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/ 区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング			
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	四国の自然環境と防災	その2			
名/英文併記	(英文名)	Natural Environment and Dis	aster Measures of Shikoku	Area, Second	Period	
8. 副題(日本語•英	(日本語名)					
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	寺尾 徹, 林 敏浩, 藤本 景	憲市			
ローマ字表記)	(ローマ字)	Terao Toru, Hayashi Toshil	hiro, Kenichi FUJIMOTO			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	なし		
14. 対象学生	1~2年全学	部	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1・2年次/全学部		
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室			
	自大学	特になし		自大学	特になし	
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け		
10. 腹廖雅关符日	連携大学	特になし	目コード番号)	連携大学	特になし	
	学生向け			学生向け		
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	四国、自然	、地震、防災、環境教育				
つ以上5つ以下)	Shikoku Isla	and, Nature, Earthquake, Disa	aster Prvention, Environme	ntal Education		ı
	四国に学び	生活しているが、本当に四国	国のことを知っていると言え	るだろうか。何	気なく見逃している四	
21. 授業概要	国の自然の	すがたを科学することで見え	とてくる、驚くような自然環境	の仕組みを探	す旅に出よう。地球最	
	大級のプレ	一ト境界型地震・東南海・南	海地震の危険が迫る太平洋	羊岸。それとた	たかおうと立ち上がる	
	地域の力。	自然の営みと人間の関わり	方の新たな模索。21世紀の)四国を展望す	るための視点の数々	
	を提供する	講義群である。 				
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主		自然の特徴と魅力を学ぶこ	とで「地域」を理解し、防災・	や環境の保全、	地域の活性化にも活	П
題	かせるように					
		€の現状と課題に関心を持ち		ることができる	(共通教育スタンダー	
23. 授業の到達目標		「関する関心と理解力」に対応	_ · ·			
/学修課題		目然の循環と災害のメカニズ	ムを正確に理解する(共通	教育スタンダー	-ドの「広範な人文・社	
	会・自然に	関する知識」に対応)。				

	3. 四国が直面する豪雨や地震などに伴う災害の脅威に正しく対処できるようになる(共通教育スタンダ	
	ードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。	
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	第3部:災害に備える (1)ガイダンス・子どもぼうさい探検隊を通じた防災教育活動 片岡信彦(日本損保協会) (2)四国の大地の成り立ちから学ぶ自然災害 西山賢一(徳島大学総合科学部准教授) (3)先人の教えに学ぶ―四国防災88話― 松尾裕治(防災教育センター特命教授) (4)災害と交通インフラ―四国の防災対策― 植松真二(国土交通省四国地方整備局総括防災調整官) 第4部:持続可能な自然と社会 (5)ジオパークは人を幸せにできるのか 柚洞一央(徳山大学経済学部准教授) (6)持続可能な社会づくりのための環境教育① 小林修(愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター・准教授) (7)持続可能な社会づくりのための環境教育② 同上 (8)期末レポート	N
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	受講前に関連する事項について書籍等により調べておきましょう。e-Learningコンテンツの視聴確認も 兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テ ストを受験してください。 自学自習(準備学習8時間+事後学習22時間)	Ø
28. 成績評価の方法 と基準	授業毎の小テスト(7回:各6点満点)と期末レポート課題(1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合は、期末レポートの提出許可を与えない。	K
29. 再試験の有無	自大学学生向け 無し 連携大学学生向け 無し	
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:あり 香川大学 200名・徳島大学 50名・鳴門教育大学 50名・高知大学 50名・愛媛大学 50名 2018年度以前に「四国の自然環境と防災」を単位修得している場合は履修できない。	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれる LMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を参照されたい。	V

		書名									
32. 教科書(購入の必要のある図書)	*L 5.1 = -	ISBN			著者名						
文》()()()(日日)	│ 教科書1 │	出版社			出版年						
		金額			備考						
			1								
		書名				1					
	 参考書1	ISBN		:	著者名						
	7.36	出版社			出版年						
		金額			備考						
		書名				-					
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	参考書2	ISBN		:	著者名						
対する神化は邦) J I I	出版社		-	出版年						
		金額			備考						
		書名									
	参考書3	ISBN		:	著者名						
	多名音0 	出版社			出版年						
		金額		•	備考						
	https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/subject_kagawa.html#subject_kagawaにある「香川大学のLMSへ移動」ボタンから辿ることができます。										
3 4.Web テキスト (URL•説明)											
(ORL·武功)	大学連携e-Learning教育支援センター四国 (知プラ) ウェブサイト https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/										
	Treepo., 7 Omp	ia o.ico.itagawa a.i	дојр [,]	36. 資格等/本科	4日会						
35. パソコン必要度	必要。Moodl	eの操作ができるこ	_ځ。	講が必要となる資格等しなし							
	,224		_v	/資格取得該当科目							
37. 教員相互参観授 業公開日程											
	自大学										
	学生向け	電子メール(shize	en−c@kaga	awa-u.ac.jp)を利用し	してくださ	い。					
38. オフィスアワー	連携大学	(Skype等webで対		場合のみ) awa-u.ac.jp)を利用し	ナノゼナ	51 X					
	学生向け	电丁/一/V(SIIIZE	en-cekaga	iwa~u.ac.jp/ ॡ イヤリ/テテﺎ (· · · ·					
	自大学	-Li									
39. 連絡先/学生相 談場所/学生開示用	学生向け	shizen-c@kagawa	a-u.ac.jp						\mathbf{v}		
メール チェ用 ホー	連携大学	shizen-c@kagawa	-u 20 in						N		
	学生向け	Silizeri Cerkagawa	a u.ac.jp						V		
40. 教員の実務経験	中央省庁や	地方自治体、民間	団体等の	実務経験のある教	員が、地	地域の防	災等に取り組んでき	きた経験			
について	を生かし、瀬	[戸内地域の防災	に係わる者	き察力を身につける:	ための教	対育を行	っている。				
41. バリアフリー対応											
73.0											
42. その他/備考											

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学部全学 制限あり	科 ※香川大学生は履修	4. 授業形態/授業種別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	全学共通科	目主題C	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	ebcG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	四国の地域振興 その1				
名/英文併記	(英文名)	Local Development of Shikol	ku Area first period			
8. 副題(日本語•英	(日本語名)					
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	林敏浩、藤本憲市				
ローマ字表記)	(ローマ字)	Toshihiro Hayashi, Ken'ich	i Fujimoto			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	選択		
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~2年		
16. 曜日・時限	指定なし		17. 講義室			
	自大学	なし		自大学	四国の地域振興 るん	T.O.
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け	四国の地域振興 その	1) 2
10. 废廖证天14日	連携大学	なし	目コード番号)	連携大学	四国の地域振興 その	ກ2
	学生向け			学生向け		
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	四国、地域	振興、地場産業、地方制度 <i>/</i>	´Shikoku, Local Developmeı	nt, Local Indus	try, Local Systems	
	四国におけ	る地域振興の取組みを以下	の側面から学びます。第11	は、産業です。	各県の代表的な地場	
21. 授業概要	産業が地域	の中で果たしている役割や	活性化策について考えます	-。第2は、交流	や文化振興による地	
	域づくりです	⁻ 。瀬戸内国際芸術祭などが	事例に取り上げられます。	第3は、地方制	度です。近年の地方	
	分権改革と	の関わりで各県の将来像を	考えます。これらを通して私	たちが居住する	る四国という地域社会	
	への理解と	感心を培い、地域活性化への	D道を探ります。			
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主	地場産業、	地方分権改革、文化・観光と	:いった観点から四国地域 <i>0</i>	D現状を理解し	.地域活性化に関する	
題	実践的関心	を培うことができるようになる	, o			V
	1. 地域社会	会の現状と課題に関心を持ち	5、自己と関連づけて理解す	けることができ	る(香川大学の場合、	
23. 授業の到達目標 /学修課題	共通教育ス	タンダードの「地域に関する!	感心と理解力」に対応)。			
	2. 地場産業	\$、地方分権改革、文化·観兴	といった観点から四国地 垣	ばの現状認識 や	地域活性化に関して	

	概要を説明できる(香	川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応)。					
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)							
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)							
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	(2)讃岐のハマチ養列 (3)讃岐うどん (香川 (4)香川の手袋産業 (5)香川の石材産業 (6)高知の林業と製造 (7)四万十の今と昔 (8)動画による地域の ※上記に加えて最終 ※担当教員の所属は 【学習の方法】 e-Learningによる非「 (Learning Manageme	国の地域振興 その1で何を学ぶか?~ 値と野網和三郎(嶋野勝路(全国海水養魚協会会長)) 政明(さぬき麺業社長)) (原直行(香川大学)) (産成典久(香川大学)) (原直行(香川大学))) (原直行(香川大学))) (PR(林敏浩(香川大学)))) (課題がありますので注意ください。 コンテンツ収録時のものです。					
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learningは基本的I 心がけてください。e-I 各回で課題を課してI い。 自学自習(準備学習1	認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を 心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)					
28. 成績評価の方法 と基準	各回の課題(8回:各最高10点)と最終課題(1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数(最大8回)が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。						
29. 再試験の有無	自大学学生向け 連携大学学生向け	なしなし					
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:なし	国の地域振興」を単位修得している場合は履修できない。	V				

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インタネットに接続できるパソコンからLMS (Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となるが、所定の日(詳細はガイダンス等を参照)までに登録が完了していない場合は履修を許可しない。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を視聴すること。							
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
	参考書1	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	参考書2	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
	参考書3	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
3 4. Web テキスト (URL・説明)		_earning教育支援セン a-e.itc.kagawa-u.ac.jp.		日国(知プラ)ウェブサイト				
35. パソコン必要度	必要			36. 資格等/本科目受 講が必要となる資格等 /資格取得該当科目	無し教職	·その他()	\square	
37. 教員相互参観授 業公開日程								
38. オフィスアワー	自大学学生向け	日時:金曜1時限目 場所:幸町北キャンパ 不在時は電子メール(开究交流棟4階教員室 shi.toshihiro@kagawa−u.ac.j	p)を利,	用されたい。	Ø	
	連携大学 学生向け	(zoom等web会議シス	ステム	で対応できる場合のみ)				
39. 連絡先/学生相	自大学 学生向け	不在時あるいは対面されたい。	が困難	ー 誰な場合は電子メール(hay	ashi.tos	shihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用	\square	
談場所/学生開示用 メール	連携大学 学生向け	電子メール(hayashi.to	oshihi	ro@kagawa-u.ac.jp)を活用る	されたし	N _o		

40. 教員の実務経験	無し	
について		
41. バリアフリー対応	無し	
42. その他/備考	無し	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期後半		
3. 開講学部・学科等	全学部全学	科 ※香川大学生は履修	4. 授業形態/授業種			
/区分等	制限あり		別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	全学共通科	目主題C	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	ebcG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	四国の地域振興 その2				
名/英文併記	(英文名)	Local Development of Shikol	ku Area second period			
8. 副題(日本語·英	(日本語名)					
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	林敏浩、藤本憲市				
ローマ字表記)	(ローマ字)	Toshihiro Hayashi, Ken'ich	i Fujimoto			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	選択		
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~2年		
16. 曜日·時限	指定なし		17. 講義室			
	自大学	なし		自大学		
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け	四国の地域振興 その	D 1
10. 腹疹征夹件日	連携大学	なし	目コード番号)	連携大学	四国の地域振興 その	N 1
	学生向け			学生向け	四国の地域派典 その) I
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	四国、地域	振興、地場産業、地方制度/	Shikoku, Local Developme	nt, Local Indus	try, Local Systems	
つ以上5つ以下)						
	四国におけ	る地域振興の取組みを以下	の側面から学びます。第11	は、産業です。	各県の代表的な地場	
21. 授業概要	産業が地域	の中で果たしている役割や	活性化策について考えます	「。第2は、交流	や文化振興による地	
	域づくりです	こ、瀬戸内国際芸術祭などが	事例に取り上げられます。	第3は、地方制	度です。近年の地方	
	分権改革と	の関わりで各県の将来像を	考えます。これらを通して私	たちが居住する	る四国という地域社会	
	への理解と	感心を培い、地域活性化への	D道を探ります。			
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主	地場産業、	地方分権改革、文化・観光と	いった観点から四国地域の	D現状を理解し	地域活性化に関する	
題	実践的関心	を培うことができるようになる	Ö.			
	1. 地域社会	会の現状と課題に関心を持ち	る、自己と関連づけて理解す	けることができ	る(香川大学の場合、	\square
23. 授業の到達目標 /学修課題		タンダードの「地域に関する!				
	2. 地場産業	\$、地方分権改革、文化·観光 	たといった観点から四国地域	域の現状認識 や	地域活性化に関して	

	概要を説明できる(香	川大学の場合、共通教育スタンダードの「地域に関する感心と理解力」に対応)。					
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)							
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)							
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	(2)文化力とまちづく。 (3)地域振興とメディア (4)アートとエコツーリ (5)共同体の崩壊(名 (6)四国四県の政治総 (7)四国の展望—四県 (8)四国の展望—四県 ※上記に加えて最終語 ※担当教員の所属は 【学習の方法】 e-Learningによる非に (Learning Management	国の地域振興 その2で何を学ぶか?~ り (竹内守善(香川大学非常勤講師)) ア (林敏浩(香川大学)) ズム (石井亨(香川大学非常勤講師)) 石井亨(香川大学非常勤講師)) 経済の歴史 (八幡和郎(徳島文理大学)) 県知事インタビュー―(八幡和郎(徳島文理大学)) 県知事インタビュー―(八幡和郎(徳島文理大学)) 果題がありますので注意ください。 コンテンツ収録時のものです。					
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learningは基本的に 心がけてください。e-L 各回で課題を課してし い。 自学自習(準備学習1	認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。 e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を 心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)					
28. 成績評価の方法 と基準	各回の課題(8回:各最高10点)と最終課題(1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合格とする。なお、各回の課題の提出回数(最大8回)が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。						
29. 再試験の有無	自大学学生向け 連携大学学生向け	なしなし	\square				
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:なし	るの 国の地域振興」を単位修得している場合は履修できない。	\square				

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インタネットに接続できるパソコンからLMS (Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。本授業を履修するには、各自でパソコンからのLMSへの登録やコース登録が必要となるが、所定の日(詳細はガイダンス等を参照)までに登録が完了していない場合は履修を許可しない。教材を視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を視聴すること。							
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
	参考書1	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	参考書2	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
	参考書3	書名 ISBN 出版社 金額		著者名 出版年 備考				
3 4. Web テキスト (URL・説明)		_earning教育支援セン a-e.itc.kagawa-u.ac.jp.		日国(知プラ)ウェブサイト				
35. パソコン必要度	必要			36. 資格等/本科目受 講が必要となる資格等 /資格取得該当科目	無し教職	·その他()	\square	
37. 教員相互参観授 業公開日程								
38. オフィスアワー	自大学学生向け	日時:金曜1時限目 場所:幸町北キャンパ 不在時は電子メール(开究交流棟4階教員室 shi.toshihiro@kagawa−u.ac.j	p)を利,	用されたい。	Ø	
	連携大学 学生向け	(zoom等web会議シス	ステム	で対応できる場合のみ)				
39. 連絡先/学生相	自大学 学生向け	不在時あるいは対面されたい。	が困難	ー 誰な場合は電子メール(hay	ashi.tos	shihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用	\square	
談場所/学生開示用 メール	連携大学 学生向け	電子メール(hayashi.to	oshihi	ro@kagawa-u.ac.jp)を活用る	されたし	N _o		

40. 教員の実務経験	無し	
について		
41. バリアフリー対応	無し	
42. その他/備考	無し	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	前期前半			
3. 開講学部・学科等 /区分等			4. 授業形態/授業種別	eラーニング			
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	全学共通科	目主題B3	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	cxxG			
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	コンピュータと教育 その1					
名/英文併記	(英文名)	Computers in Education first	period				
8. 副題(日本語•英	(日本語名)	無し					
語)	(英文名) 無	無し					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	林敏浩					
ローマ字表記)	(ローマ字)	Toshihiro Hayashi					
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜				
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	選択			
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~2年			
16. 曜日·時限	指定無		17. 講義室				
	自大学	+>I		自大学	コンピュータと教育 そ	- M O	
18. 履修推奨科目	学生向け	なし	19. 関連科目(関連科	学生向け	コンヒューダと教育 で	-0)2	
10. 腹疹征夹件日	連携大学	なし	目コード番号)	連携大学	コンピュータと教育 そ	-m2	
	学生向け	<i>4</i> 0		学生向け	コンピューアと教育	. 072	
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	情報通信技	ī術, CAI, e−Learning, 教育シ	ステム/ICT, CAI, e-Learn	ing, Educationa	al Systems		
a les alle lorres	近年、情報	通信技術(ICT)を活用した教	枚育が様々な教育機関で実	施されるように	なってきた。また、予		
21. 授業概要	習・復習など	どの自宅等における学習者主	E体の学習にもICTの利用が	が増えてきてい	る。本講義ではこのよ		
	うな情報通	信技術(ICT)を活用した教育	・学習、それらを支える教育	育・学習システ.	ムについて講義する。	V	
	なお、7,8回	目は教育システム研究などの	D動向により予定と異なる内	容になる場合	がある。		
22. 授業の目的及び	ICTを利活月	用する教育環境を単に利用す	者(学習者)として利用する	だけではなく、こ	これまでにはなかった	\square	
主旨/授業科目の主 題	21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情						
起	報通信技術(ICT)を活用した教育・学習から、コンピュータと教育について学習する。						
	(1)教育・学	学習方法の概要を説明できる	(香川大学の場合、共通教	育スタンダー	ドの「21世紀社会の諸		
23. 授業の到達目標	問題に対す	る探究能力」に対応)。					
/学修課題	(2)(1)を5	支える情報通信技術を説明で	できる(香川大学の場合、共	通教育スタン	ダードの「21世紀社会		
	の諸問題に	対する探究能力」に対応)。					

	(3)教育・学習支援システムにどのようなものがあるか概説できる(香川大学の場合、共通教育スタンダ						
	ードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。						
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)							
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)							
	【授業計画】						
	第1回目:講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その1」の講義で何を学ぶか?						
	第2回目:e-Learningでいかに学ぶか?						
	第3回目:遠隔講義でいかに学ぶか?						
	第4回目:ICTを活用した教育・学習支援(1):CAI(Computer Assisted Instruction)概説						
	第5回目:ICTを活用した教育・学習支援(2):CAIシステムの歴史と新しい教育システム						
	第6回目:ICTを活用した教育・学習支援(3):知的CAI概説						
26. 授業スケジュール	第7回目:トピックス:四国におけるe-Learningによる教育連携						
∕授 業計画並びに授業及 び学習の方法	第8回目:トピックス:新しい時代のe-Learning						
	 ※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。						
	※コンテンツ更新に伴い、内容などに変更が生じた場合は、第1回目の講義ガイダンスで説明します。						
	【学習の方法】						
	e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインタネットに接続できるパソコンでLMS						
	(Learning Management System)にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確						
	認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。						
	e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を						
	心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。						
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出くださ						
	lv _o						
	自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)						
	各回の課題(8回:各最高10点)と最終課題(1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合						
28. 成績評価の方法 と基準	格とする。なお、各回の課題の提出回数(最大8回)が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得						
	点に関わらず不可とする。						
29. 再試験の有無	自大学学生向け なし						
	連携大学学生向けなし						
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制	受講人数制限:なし						
限	2018年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できない。						

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を 心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。						
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名 ISBN 出版社 金額		出	音者名 出版年 請考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名 ISBN 出版社 金額		出	音者名 出版年 請考		
	参考書2	書名 ISBN 出版社 金額		出	指名名 出版年 請考		
	参考書3	書名 ISBN 出版社 金額		出	音者名 出版年 請考		
34.Web テキスト (URL・説明)		_earning教育支援 ⁻ a-e.itc.kagawa-u.a		3国(知プラ)ウェブサー	イト		
35. パソコン必要度	必要			36. 資格等/本科講が必要となる資本/資格取得該当科	格等	無し 教職・その他()	Ø
37. 教員相互参観授 業公開日程							
38. オフィスアワー		不在時は電子メー	ャンパス研 ール(hayas	T究交流棟4階教員室 shi.toshihiro@kagawa-	-u.ac.jp) [:]	を利用されたい。	
	連携大学 学生向け	(zoom等web会議	システム	で対応できる場合の∂	み)		
39. 連絡先/学生相 談場所/学生閉示田	自大学 学生向け	不在時あるいはタ	対面が困難	性な場合は電子メール	レ(hayas	hi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用	\square
談場所/学生開示用 メール	連携大学 学生向け	電子メール(hayas	shi.toshihir	ro@kagawa-u.ac.jp)を	活用され	 いたい。	\square

40. 教員の実務経験	無し	
について		
41. バリアフリー対応	無し	
42. その他/備考	無し	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	前期後半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	T-2-1-1-2-1-1		4. 授業形態/授業種別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/ 区分等	全学共通科	·目主題B3	6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング	cxxG		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	コンピュータと教育 その2	2			
名/英文併記	(英文名)	Computers in Education sec	ond period			
8. 副題(日本語·英	(日本語名)					
語)	(英文名)					
9. 担当教員名(教員	(日本語)	林敏浩				
ローマ字表記)	(ローマ字)	Toshihiro Hayashi				
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	選択		
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~2年		
16. 曜日·時限	指定無		17. 講義室			
	自大学 学生向け	なし		自大学 学生向け	コンピュータと教育 そ	その1
18. 履修推奨科目	連携大学		_ 19. 関連科目(関連科 <u> </u> - 目コード番号)	連携大学		
	学生向け	なし		学生向け	コンピュータと教育 そ	その1
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	情報通信技	:術, CAI, e−Learning, 教育シ	ステム/ICT, CAI, e-Learn	ing, Educationa	al Systems	
21. 授業概要	近年、情報	通信技術(ICT)を活用した教	対育が様々な教育機関で実	施されるように	なってきた。また、予	
	習・復習など	ごの自宅等における学習者主	E体の学習にもICTの利用が	「増えてきてい	る。本講義ではこのよ	\square
	うな情報通信	信技術(ICT)を活用した教育	・学習、それらを支える教育	·学習システ <i>L</i>	いについて講義する。	
22. 授業の目的及び	ICTを利活月	用する教育環境を単に利用者	者(学習者)として利用する	だけではなく、こ	これまでにはなかった	V
主旨/授業科目の主	21世紀型の新しい教育環境の特徴を深く理解するため、本講義で、近年発展してきたe-Learningなど情					
題	報通信技術	(ICT)を活用した教育・学習	から、コンピュータと教育に	ついて学習する	5.	
	(1)教育•学	空習支援システムにどのような	なものがあるか説明できる(香川大学の場	合、共通教育スタンダ	
23. 授業の到達目標		せ紀社会の諸問題に対する探				
/学修課題		ステムの活用事例などを説明		共通教育スタ	ンダードの「21世紀社	
	会の諸問題	に対する探究能力」に対応)	0			

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	【授業計画】 第1回目:講義ガイダンス、「コンピュータと教育 その2」の講義で何を学ぶか? 第2回目:教育・学習支援システム(1):フレーム型システム 第3回目:教育・学習支援システム(2):ドリル&プラクティス型CAIシステム 第4回目:教育・学習支援システム(3):ゲーム&シミュレーション型システム 第5回目:教育・学習支援システム(4):アドリブ型・情報検索型・質問応答型システム 第6回目:高度教育・学習支援システム(1):知的CAIシステム 第7回目:高度教育・学習支援システム(2): いろいろな高度教育システム 第8回目:高度教育・学習支援システム(3): 協調学習支援システム ※上記に加えて最終課題がありますので注意ください。 ※コンテンツ更新に伴い、内容などに変更が生じた場合は、第1回目の講義ガイダンスで説明します。 【学習の方法】 e-Learningによる非同期型授業として実施する。受講はインタネットに接続できるパソコンでLMS (Learning Management System)にアクセスして、e-Learningコンテンツを視聴する形態になる。出席確認も兼ねて各回で理解度を判定する課題を課す。	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を 心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間) 各回の課題(8回:各最高10点)と最終課題(1回:最高20点)を採点して合計した得点が60点以上を合	\sqrt
28. 成績評価の方法と基準	格とする。なお、各回の課題の提出回数(最大8回)が5回未満、または、最終課題が未提出の場合は得点に関わらず不可とする。	\square
29. 再試験の有無	自大学学生向け なし 連携大学学生向け なし	
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:なし 2018年度以前に「コンピュータと教育」を単位修得している場合は履修できない。	\square

Γ

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	心がけてくだ	e-Learningは基本的には自学自習ですので計画的な履修(コンテンツ視聴、オンラインレポート提出)を 心がけてください。e-Learningの落とし穴に落ち込まないようにしてください。 各回で課題を課していますので、コンテンツ視聴後、課題を必ず回答してLMSでオンライン提出ください。						
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名 ISBN 出版社 金額		出	音者名 出版年 請考			
	参考書1	書名 ISBN 出版社 金額		出	音者名 出版年 請考			
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	参考書2	書名 ISBN 出版社 金額		出	指名名 出版年 請考			
	参考書3	書名 ISBN 出版社 金額		出	音者名 出版年 請考			
34.Web テキスト (URL・説明)		_earning教育支援 ⁻ a-e.itc.kagawa-u.a		3国(知プラ)ウェブサー	イト			
35. パソコン必要度	必要			36. 資格等/本科講が必要となる資本/資格取得該当科	格等	無し 教職・その他()	Ø	
37. 教員相互参観授 業公開日程								
38. オフィスアワー		不在時は電子メー	ャンパス研 ール(hayas	T究交流棟4階教員室 shi.toshihiro@kagawa-	-u.ac.jp) [:]	を利用されたい。		
	連携大学 学生向け	(zoom等web会議	システム	で対応できる場合の∂	み)			
39. 連絡先/学生相 談場所/学生閉示田	自大学 学生向け	不在時あるいはタ	対面が困難	性な場合は電子メール	レ(hayas	hi.toshihiro@kagawa-u.ac.jp)を活用	\square	
談場所/学生開示用 メール	連携大学 学生向け	電子メール(hayas	shi.toshihir	ro@kagawa-u.ac.jp)を	活用され	 いたい。	\square	

40. 教員の実務経験	無し	
について	,	
41. バリアフリー対応	無し	
42. その他/備考	無し	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022		2. 開講学期	前期後半			
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学共通科	·目	4. 授業形態/授業種別	eラーニング	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/ 区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング				
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	人工魚礁の開発と環境保	全				
名/英文併記	(英文名)	Development of Artificial Red	efs and Environmental Cons	servation			
8. 副題(日本語・英	(日本語名)						
語)	(英文名)						
9. 担当教員名(教員	(日本語)	末永 慶寛					
ローマ字表記)	(ローマ字)	Suenaga Yoshihiro					
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜				
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分				
14. 対象学生	1~3年全学	部	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1·2·3年次/全学部			
16. 曜日·時限	なし		17. 講義室				
	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科	自大学 学生向け	特になし		
18. 履修推奨科目	連携大学 学生向け	特になし	目コード番号)	連携大学 学生向け	特になし		
20. 授業のキーワード	人工魚礁	· 流動制御,環境改善,資源生	· E産力				
/英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	Artificial Re	ef, Current Control, Environ	mental Improvement, Resou	rces Productiv	rity		
21. 授業概要	我が国沿岸	海域における水産資源生産	を力の向上のための施設と	して、様々な人	、工魚礁が開発されて		
	きた。本講	義では、人工魚礁開発の歴5	史と人工魚礁の有すべき水	産資源生産力	向上および環境改善		
	機能につい	て, 実海域における具体例を	を挙げながら解説する。				
22. 授業の目的及び	主に瀬戸内	 海を中心として, 人工魚礁の	D開発にまつわる歴史、求る	められる機能、	設計コンセプトおよび		
主旨/授業科目の主 題	実海域にお	ける生物資源増大に資する	効果に関する知識を得るこ	とが本授業の目	目的である。		
	本講義を受	講することにより、以下の項	目を説明できる。			\	
	1.人工魚礁	の歴史、役割				V	
23. 授業の到達目標 /学修課題	2.人工魚礁	の流動制御機能					
	3.人工魚礁	の実海域における生物資源の	生産力向上効果				
	4.地場産業	との共同研究による技術の写	実用化				

	5.SDGs目標14「海の	豊かさを守ろう」	
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	 ガイダンス(授業内 人工魚礁の安定性 人工魚礁の流動制 人工魚礁の生物動 人工魚礁の藻場道 人工魚礁の環境さ 	引御機能 引集機能 造成機能	lacktriangleright
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	ています。しっかり復	の視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課し 習してから小テストを受験してください。 5時間+事後学習15時間)	Ø
28. 成績評価の方法 と基準		点満点、期末レポートを60点満点で評価し、合計60点以上を合格とする。なお、小回数が3回未満の場合は、期末レポートの提出資格を与えない。	\square
29. 再試験の有無	自大学学生向け 連携大学学生向け	無し 無し	\square
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:あり 香川大学 <u>200</u> 名、徳	島大学 <u>50</u> 名、鳴門教育大学 <u>50</u> 名、高知大学 <u>50</u> 名、愛媛大学 <u>50</u> 名受講人数	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	LMS(Learning Manag ンテンツを視聴する隙	までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれる ement System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コ 際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。そ Iについては、第1回(ガイダンス)を参照されたい。	

20 数到妻/唯1の改		書名						
32. 教科書(購入の必 要のある図書)	 教科書1	ISBN			著者名			
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	出版社			出版年			
		金額			備考			
		書名	閉鎖生態	態系・生態工学ハ	ンドブック			
	 参考書1	ISBN	978-4-9	904419-57-1	著者名	大政, 竹内], 末永, 菊池ら	
		出版社	丸善出	版 ————————————————————————————————————	出版年	2015		
		金額			備考			
		書名			1			
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書2	ISBN			著者名			
	J STORE	出版社			出版年			
		金額			備考			
		書名						
	参考書3	ISBN			著者名			
	参与音3	出版社			出版年			
		金額			備考			
				ect_kagawa.html#	subject_ka	gawaにある「香川	大学のLMSへ移	
3 4 . Web テキスト	動」ホタンか	ら辿ることができる	ます。					
(URL•説明)	大学連携e-l	Learning教育支援	センターロ	四国(知プラ)ウェフ	ブサイト			
	https://chip	la-e.itc.kagawa-u.	.ac.jp/			I		
				36. 資格等/2	なし			
35. パソコン必要度	必要。Moodl	eの操作ができる	こと。 講が必要となる資格等 教職・その他()		
				/資格取得該当	当科目			
37. 教員相互参観授 業公開日程								
	自大学	重フォール	1.11	· al	· \ + = 1 =	コ ナノ+*ナル		
00 47 777	学生向け	电十メール (suer	naga.yosnii	niro@kagawa-u.ac	.jp)を利用	10 (1:200		
38. オフィスアワー	連携大学	(Skype等webで			. \	11 - //*!.		
	学生向け	電子メール (suer	naga.yoshil	niro@kagawa-u.ac	.jp)を利用 	してください。		
	自大学	ouone se ve alait	o@k	-u oo in				
39. 連絡先/学生相	学生向け	suenaga.yoshihir	o@kagawa	-и.ас.јр				
談場所/学生開示用 メール	連携大学		- @1					
	学生向け	suenaga.yoshihiro@kagawa-u.ac.jp						
40. 教員の実務経験	建設業, コン	 ノサルティング,サ	ナービス業	等の実務経験を	有し, その	ン経験を活かして を	構造物の設計, 施	
について	工,環境影響	響評価および実用	化に至る「	ものづくり」の基础	楚を教育し	ている.		
 41. バリアフリー対応 								
42. その他/備考								
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,								

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半			
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学共通科目		4. 授業形態/授業種 別	eラーニング			
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング				
7. 科目名/科目英文	(日本語名) 高度情	報化社会の歩き方					
名/英文併記	(英文名) Way of V	Valking on Advan	aced Information Society				
8. 副題(日本語·英	(日本語名)						
語)	(英文名)						
9. 担当教員名(教員	(日本語) 後藤田	中,藤本 憲市					
ローマ字表記)	(ローマ字) Gotoda	Naka, Fujimoto Ker	n'ichi				
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜				
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	なし			
14. 対象学生	1~2年全学部		15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1・2年次/全学部			
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室				
	自大学特にな	l		自大学	特になし		
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け			
10. 腹廖证天行口	連携大学特にな	L	目コード番号)	連携大学	特になし		
	学生向け			学生向け			
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	高度情報化社会, 人	工知能,技術的特勢	異点, セキュリティ				
つ以上5つ以下)	Advanced Information	n Society, Artificial	Intelligence, Singularity, Se	curity			
	高度情報化に伴い	我々の身の回りの	社会環境は, 益々創造的で	き豊かになって	いる. AIやIoTといった		
21. 授業概要	テクノロジーが進化し	し, 我々の生活に落	客け込み、"便利な"サービ。	スの根幹をなし	し始めている. 一方で		
	我々の生活が豊かに	になる反面, 見落と	しがちな諸問題も生まれ始	めている. この)授業では, 高度情報	\checkmark	
	化社会に伴う我々の	社会環境における	現在、そして今後の予測に	対し, 光と影,	それぞれの一端を紹		
	介し、人と情報がどの)ように接すれば, 』	より豊かな生活を実現できる	か学ぶ.			
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主	高度情報化社会の特		様々なテクノロジーの特徴	を知識として獲	進得し,そのテクノロジ		
五日/授耒科日の王 題	一から生まれるサー	ビスの利用例, また	注意すべき点を理解するこ	とが本授業の	目的である.	V	
les alle	以下の項目を説明で	きる.				N	
23. 授業の到達目標 /学修課題	1. AIがもたらす可能	能性と社会的諸問題	夏(例:人の雇用, 著作権)			V	
	2. IoTにより、ネット	・ワークにつながる(更利さと注意点(例:セキュリ	ティ)			

24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項目)									
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)									
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	 人工知能による 著作物の円が AIにより置きが 広がるIoT・逆 スポーツにIC 暗号とセキュ 								
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	を課しています さい.	⁻ 。ビデオ視耶		く,自ら調		要を確認するためのレポート ポート内容にも反映してくだ	\square		
28. 成績評価の方法 と基準			:レポート(50点) iの場合は、期末			以上を合格とする。なお、小 -えない.	\square		
29. 再試験の有無	自大学学生向付 連携大学学生向								
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限: 香川大学 <u>20</u> 名・		·鳴門教育大学 <u>2</u>	<u>20</u> 名•高知大	、学 <u>20</u> 名・愛媛ス	大学 <u>20</u> 名 計100名まで			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	LMS(Learning M	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれる LMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を参照されたい。							
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1 -	書名 ISBN 出版社 金額			著者名 出版年 備考				

		書名					
	学 之事。	ISBN			著者名		
	参考書1	出版社			出版年		
		金額			備考		
		書名					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書2	ISBN			著者名		
	少行自己	出版社			出版年		
		金額			備考		
		書名					
	参考書3	ISBN			著者名		
		出版社			出版年		
		金額			備考		
		pla-e. i tc. kaga 」ボタンから辿			wa.html‡	‡subject_kagawaにある「香川大学	
3 4. Web テキスト (URL•説明)	十尚海推。」		ታ ነ <i>/</i> ታ ጠ	3国(知プラ)ウェブ	} ⊥ 4 ∠ι		
,		.earning叙自又抜 a-e.itc.kagawa-u.a		1国(加ノフ)・ノエノ	716		
				36. 資格等/本	科目受		
35. パソコン必要度	必要			講が必要となる	資格等	なし	
				/資格取得該当	教職・その他() /資格取得該当科目		
37. 教員相互参観授							
業公開日程							
	自大学	担当回教員の電	子メールを	・利用し,随時問じ	合わせて	てください.	
38. オフィスアワー	学生向け						
	在15八十	(Zoom等webで対 担当回教員の電		場合のみ) €利用し,随時問い	合わせて	てください.	
	学生向け						
39. 連絡先/学生相		(後藤田) gotoda.i					
談場所/学生開示用		(藤本) fujimoto.					
メール		(後藤田) gotoda.i (藤 本) fujimoto.					
					経験を		
40. 教員の実務経験							
について	本)が、専門分野の知見を活用した講義コンテンツ(それぞれ第3~5回, 第6~7回)を使用して実践的教育を実施するものである。						•
41. バリアフリー対応							
42. その他/備考							

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022		2. 開講学期	後期前半				
3. 開講学部・学科等 /区分等	全学共通科	·目	4. 授業形態/授業種別	eラーニング				
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/ 区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング					
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	データ利活用とオープン	イノベーションで創る未	来のまちづく	り			
名/英文併記	(英文名)	Data driven and Open inn	novative solutions for	future commun	nity creation			
8. 副題(日本語•英	(日本語名)							
語) ————————————————————————————————————	(英文名)							
9. 担当教員名(教員		米谷 雄介						
ローマ字表記) 10. 時間割コード/申	(ローマ字)	Kometani Yusuke						
請コード/授業コード			11. 昼夜					
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	なし				
14. 対象学生	1~4年全学	部	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1~4年次/全	全学部			
16. 曜日•時限	なし		17. 講義室					
	自大学	特になし		自大学	特になし			
18. 履修推奨科目	学生向け		19. 関連科目(関連科	学生向け				
	連携大学	特になし	目コード番号)	連携大学	特になし			
	学生向け			学生向け				
20. 授業のキーワード / 英文キーワード (3		_{イ,} まちづくり, <mark>データ活用</mark> , :						
つ以上5つ以下)		Community Creation, Data L				1		
		ティは新たなまちづくりのモデ						
		い換えるとハードウェア/サ						
		この新たなまちづくりのモデノ						
21. 授業概要)解決を中心に据え(課題解) で、自分たちの使う公共サー						
		vる. 近年様々な基礎自治体においてスマートシティに向けた動きがあるが, スマートシティの推進を担 						
		講者は, データ利活用技術や						
		おけるケーススタディを通じて						
		用サービスを考案する態度を						

22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主 題	本授業の目的は、スマートシティを担う人材に必要とされるデータ利活用技術およびオープンイノベーションの考え方を理解し、体得することを目的とする.	\square
23. 授業の到達目標 /学修課題	以下の知識を説明できる. 1. スマートシティとは何であり、なぜ必要であるか? 2. オープンイノベーションとは何であり、なぜ必要であるか? 以下の行動ができる. 1. 香川大学が開発したICT・IoTツールを用いてデータ利活用サービスのプロトタイプを作成できる 2. 異業種・異分野の他者とのアイデア交換を通じて自分なりにデータ利活用サービスを考案できる 3. 地域のニーズを理解し、本当に必要とするサービスを考案できる	Ø
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	 【授業計画】 ※ 授業内容は変更になる可能性があります。 1. ガイダンス、開発環境の準備(クラウド開発環境、APIの理解) 2. オープンデータの可視化、APIインテグレーション 3. 移動体データの可視化 4. 物理センサーデータの可視化 5. AIカメラ・センサーデータの可視化 6. IoT(Internet of Things)の構築 7. オープンイノベーションとデータ利活用サービスデザイン 8. 期末レポート(アイデアソン) 	
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を確認するためのレポートを課しています。ビデオ視聴するだけでなく、自ら演習を行い、レポート内容にも反映してください. 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)	N
28. 成績評価の方法 と基準	1~6回の小レポート(70点)と、7回~8回の期末レポート(30点)により評価し、合計60点以上を合格とします。なお、小レポートを未提出の場合は、期末レポートの提出資格を与えません.	K
29. 再試験の有無	自大学学生向け 無し 連携大学学生向け 無し	
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:あり 香川大学 <u>10</u> 名・徳島大学 <u>10</u> 名・鳴門教育大学 <u>10</u> 名・高知大学 <u>10</u> 名・愛媛大学 <u>10</u> 名 計50名まで	

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	LMS(Learnin	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれる LMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、第1回(ガイダンス)を参照されたい。							Ø
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名 ISBN 出版社 金額			著者名出版年備考				
	参考書1	書名 ISBN 出版社 金額			著者名出版年備考				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書2	書名 ISBN 出版社 金額			著者名出版年備考				
	参考書3	書名 ISBN 出版社 金額			著者名出版年備考				
34.Web テキスト (URL・説明)	のLMSへ移動 大学連携e-I	か」ボタンから辿	ることが [・] センター四	jp/subject_kagar できます。 9国(知プラ)ウェブ		subject_kaga	waにある	「香川大学	\square
35. パソコン必要度	必要			36. 資格等/本講が必要となる/資格取得該当	資格等	なし 教職・その他	()	
37. 教員相互参観授 業公開日程									
38. オフィスアワー	自大学 学生向け 連携大学	(Skype等webで対	対応できる						
	学生向け	担当回教員の電 (米谷) kometani.y		を利用し, 随時問い 	合わせて	てください.			
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用メール	学生向け 連携大学 学生向け	(米谷) kometani.y							

40. 教員の実務経験	本科目は、データ利活用プラットフォームやデータ可視化技術に係る実務経験を有する教員が、専門分		
について	野の知見を活用した講義コンテンツを使用して実践的教育を実施するものである。	V	
41. バリアフリー対応			
42. その他/備考			

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

	ı						
1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半			
3. 開講学部·学科等 /区分等	全学共通科	目	4. 授業形態/授業種別	eラーニング			
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング				
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	本語名)データサイエンスを活用した防災・危機管理					
名/英文併記	(英文名) Di	isaster mitigation and crisis i	management using data scie	ence			
8. 副題(日本語・英	(日本語名)	無し					
語)	(英文名) 無	€ L					
9. 担当教員名(教員	(日本語) 野	5々村 敦子					
ローマ字表記)	(ローマ字) 1	Nonomura Atsuko					
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜				
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	なし			
14. 対象学生	1~2年全学	部	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1・2年次/全学部			
16. 曜日·時限	なし		17. 講義室				
	自大学	情報リテラシーB		自大学	レジリエントな社会の構築		
	学生向け			学生向け	とコンピューターシュミレー		
	学生向け			学生向け	とコンピューターシュミレー ション		
	学生向け			学生向け	ション		
18. 履修推奨科目			19. 関連科目(関連科		ジョン 災害とデータサイエンス		
18. 履修推奨科目	連携大学	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	連携大学	ション 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築		
18. 履修推奨科目		特になし			ジョン 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー		
18. 履修推奨科目	連携大学	特になし		連携大学	ション 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築		
18. 履修推奨科目	連携大学	特になし		連携大学	ジョン 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー		
20. 授業のキーワード	連携大学学生向け	特になし 特になし たい できない できない できない できない はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はいま はい	目コード番号)	連携大学	ジョン 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー ション		
	連携大学学生向け		目コード番号)	連携大学	ジョン 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー ション		
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	連携大学 学生向け データサイコ Data Science	ェンス、防災・減災、危機管理	目コード番号) Emanagement	連携大学学生向け	ジョン 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー ション 災害とデータサイエンス		
20. 授業のキーワード /英文キーワード (3	連携大学 学生向け データサイコ Data Scienc 日本は地震	ェンス、防災・減災、危機管理 ce, Disaster mitigation, Crisis	目コード番号) E management による被害を受けている。ま	連携大学学生向け	ジョン 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー ション 災害とデータサイエンス		
20. 授業のキーワード / 英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	連携大学 学生向け データサイコ Data Science 日本は地震 然災害が発	エンス、防災・減災、危機管理 se, Disaster mitigation, Crisis や台風など大きな自然災害	目コード番号) management による被害を受けている。ま	連携大学学生向け	ジョン 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー ション 災害とデータサイエンス 従来にない大規模自 際化にともない、これ		
20. 授業のキーワード / 英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	連携大学 学生向け データサイン Data Scienc 日本は地震 然災害が発 までにない	エンス、防災・減災、危機管理 ce, Disaster mitigation, Crisis や台風など大きな自然災害 生する可能性が高まり、さら	目コード番号) management による被害を受けている。またには社会システムの高度 大している。いま、自然・人為	連携大学学生向け	ション 災害とデータサイエンス レジリエントな社会の構築 とコンピューターシュミレー ション 災害とデータサイエンス 従来にない大規模自 際化にともない、これ 応可能なレジリエント		

22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主 題		い)な社会の構築に向け、防災・危機管理分野おけるデータサイエンスの活用法をサイエンスに立脚した地域の安全・安心を議論できるようになる。	\square			
23. 授業の到達目標 /学修課題	2. 防災・危機管理分	レジリエント(しなやか)な社会とは何かを説明できる。 防災・危機管理分野におけるデータサイエンスの活用法を説明できる。 地域における災害に対する安全・安心を、自分の言葉で説明できる。				
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)						
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)						
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	第2週 地球温暖化に 第3週 ビッグデータを 第4週 移動体・画像が 第5週 流量予測への 第6週 データサイエン	に対する推移予測研究の試み :伴う気候変動の検出とそのリスクの見積もりに係わるビッグデータ解析 :中いた地球温暖化にともなう現在気候に対する将来気候の評価 解析技術による災害復旧過程の分析)深層学習の適用と豪雨災害リスクの評価 レスを活用した防災・危機管理 基礎編 レスを活用した防災・危機管理 実践編	K			
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	のような能力が必要	毎週のコメントシートの作成に関しては、地域における災害に対する安全・安心に結びつけるためにどのような能力が必要か、文献等で事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。自学自習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)				
28. 成績評価の方法と基準	コメントシート50点(至 点以上の評価により なお、期末試験は実力		\square			
29. 再試験の有無	自大学学生向け 連携大学学生向け	無し				
30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限	受講人数制限:あり	大学 <u>10</u> 名·鳴門教育大学 <u>10</u> 名·高知大学 <u>10</u> 名·愛媛大学 <u>10</u> 名	\square			
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	e-Learningコンテンツ もらいます。	の視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめて				

	無し							
		書名						
32. 教科書(購入の必要のある図書)		ISBN			著者名			
安いのの凶音)	教科書1 	出版社			出版年			
		金額			備考			
		<u>'</u>	L					
		書名						
	公	ISBN			著者名			
	参考書1	出版社			出版年			
		金額			備考			
		書名						
33. 教科書・参考書に	2 2 2 2 0	ISBN			著者名			
関する補足情報	参考書2	出版社			出版年			
		金額			備考			
		書名				,		
	2 2 2 2 0	ISBN			著者名			
	参考書3 	出版社			出版年			
		金額			備考			
	無し							
34.Web テ キ スト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/						\square	
				36. 資格等/本	科目受			
35. パソコン必要度	必要			講が必要となる	資格等	教職・その他()	
				/資格取得該当	i科目			
37. 教員相互参観授 業公開日程								
	自大学	担当教員の電子.	メール(ds	cm-data-c@kagav	va-u.ac.jp)を利用してください。		
	学生向け							
38. オフィスアワー	連携大学	(Skype等webで対				\ 		
	学生向け	担当教員の電子	メール (ds	cm-data-c@kagav	va-u.ac.jp)を利用してください。		\square
	自大学	担当教員の電子	メール(ds	cm-data-c@kagav	va-u.ac.jp)を利用してください。		
39. 連絡先/学生相 談場所/学生開示用	学生向け							V
メール	連携大学	担当教員の電子	メール(ds	cm-data-c@kagav	va-u.ac.jp)を利用してください。		
	学生向け							
40. 教員の実務経験								
について	無し							
41. バリアフリー対応	無し							

42. その他/備考	 無し 	
42. その他/備考	無し	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半		
3. 開講学部·学科等 /区分等	수 : 그: # # # # # # #		4. 授業形態/授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング			
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	本語名)レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション				
名/英文併記	(英文名) B	uilding a resilience society a	nd computer simulation			
8. 副題(日本語・英	(日本語名)	無し				
語)	(英文名) 無	₹L				
9. 担当教員名(教員	(日本語) 吉	田秀典				
ローマ字表記)	(ローマ字)	Yoshida Hidenori				
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜			
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区分	なし		
14. 対象学生	1~2年全学	部	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1·2年次/全学部		
16. 曜日·時限	なし		17. 講義室			
	自大学	情報リテラシーB		自大学	データサイエンスを活用し	
	学生向け			学生向け	た防災・危機管理	
18. 履修推奨科目			19. 関連科目(関連科		災害とデータサイエンス	
10. 腹形正天竹口	連携大学	特になし	目コード番号) 	連携大学	データサイエンスを活用し	
	学生向け			学生向け	た防災・危機管理	
					災害とデータサイエンス	
20. 授業のキーワード / 英文キーワード (3	データサイ	エンス、レジリエンス、コンピ <i>=</i>	ューターシミュレーション			
つ以上5つ以下)	Data Science	ce, Resilience, Computer sim	ulation			
	コンピュータ	マーシミュレーションは、「第30	の科学」とも言われ、自然科	学、工学、経済	斉学、社会科学におけ	
	る理論・シス	ステムを数理モデルで表現し	、コンピュータを用いて仮想	実験や事象予	測を行う技術である。	
21. 授業概要	今日では、	製造業における工業製品の	設計や新規材料の開発、自	自然現象の解明	月による災害対策、社	
	会インフラ	整備のための構造物設計·安	全評価、金融・ビジネスにお	おけるマーケテ	ィングなど多様な分野 🗸	
	において欠	かすことができない。とりわり	ナ、ビッグデータとAIなどの	数理技術との	融合により、製品の設	
	計・製造プロ	ロセスの最適化、公共インフラ	5の維持と保安水準の向上	、津波·地震等	の災害予測精度の向	
	上、安価か	つ環境性の高い電力・エネル	/ギー製造と供給、テーラー	メイド医療・予	坊サービス普及による	

	医療費削減など、幅	広い分野において新しい価値を創造することが期待されている。本講義では、レジ			
	リエントな(強靭化)を	t会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要性と必			
	要不可欠であることを	学ぶ。			
22. 授業の目的及び	しぶりエントた(金数)	(E) 社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を学び、さらに、コン			
主旨/授業科目の主		ションの援用による地域の安全・安心を議論できるようになる。			
題					
 23. 授業の到達目標		朝化)社会とは何かを説明できる。 			
/学修課題	2. レジリエントな(強草 	朝化)社会構築におけるコンピューターシミュレーションの活用法を説明できる。 			
	3. コンピューターシミ	ュレーションの援用による地域の安全・安心を、自分の言葉で説明できる。			
24. ディプロマ・ポリシ					
一(卒業時の到達目					
標・共通教育の理念・教育方針に関わる項					
目)					
25. カリキュラムマッ					
プ(授業科目の主題・					
授業科目の到達目標 とカリキュラムマップ)					
(CM)41)A())					
	第1週 AI等を用いた	社会インフラのヘルスチェック			
	7,5 12	レーションが可能とする社会インフラの長寿命化			
		-ションに基づく建築物の安全性評価			
26. 授業スケジュール					
│ /授 業計画並びに授業及	第4週 地盤モデルを用いた地盤震動シミュレーション				
び学習の方法		用いた強震動シミュレーション			
		活用した高潮/津波/ため池氾濫シミュレーション			
	第7週 都市モデルを 	活用した広域避難シミュレーションと復興政策の検討			
	第8週 まとめ				
	毎週のコメントシート	の作成に関しては、コンピューターシミュレーションの援用による地域の安全・安心			
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	の重要性等について、文献等事前に調べるなどして、独自の考えも展開するようにしてください。自学自				
	習(準備学習 16時間 + 事後学習 16時間)				
	コメントシート50点(至	達目標1、2、3に対応)+小テスト50点(到達目標1、2、3に対応)により評価し、60			
28. 成績評価の方法 と基準	点以上の評価により	合格とする。	\square		
	なお、期末試験は実施	施しない。			
00 =====	自大学学生向け	無し			
29. 再試験の有無	連携大学学生向け	無し			
30. 受講の条件/先	受講人数制限:あり				
行科目/受講人数制 限	│ │香川大学60名·徳島;	大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名			
31. 受講のルール履	e-Learningコンテンツ	の視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめて			
修上の注意・担当教員 からのメッセージ/履	もらいます。				
修希望学生に求めるも			•		
0					

	無し						
		書名					
32. 教科書(購入の必要のある図書)		ISBN			著者名		
安ののる凶音)	教科書1	出版社			出版年		
		金額			備考		
					L	<u> </u>	1
		書名					
	2 2 2 1 4	ISBN			著者名		
	参考書1	出版社			出版年		
		金額			備考		
		書名				·	
00 #11 # 2 # #1-	4 + + -	ISBN			著者名		
33. 教科書・参考書に 関する補足情報	参考書2	出版社			出版年		
		金額			備考		
		書名					
	4 + + -	ISBN			著者名		
	参考書3	出版社			出版年		
		金額			備考		
	無し						1
3 4. Web テキスト (URL•説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国 (知プラ) ウェブサイト https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/						\square
	36. 資格等/本科目受						
35. パソコン必要度	必要			講が必要となる資格等 教職・その他()			
				/資格取得該当	4科目		
37. 教員相互参観授業公開日程							
	自大学	坦当教員の電子.	メール(ds	cm-resi-c@kagaw	a−u.ac.jp)	を利用してください。	
	学生向け						
38. オフィスアワー	年15八十	Skype等webで対				471TL - 4181.	
	学生向け	担当教員の電子メール(dscm-resi-c@kagawa-u.ac.jp)を利用してください。					
	自大学	旦当教員の電子.	メール(ds	cm-resi-c@kagaw	ra−u.ac.jp)	を利用してください。	
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用	学生向け						
メール	連携大学	旦当教員の電子.	メール (ds	cm-resi-c@kagaw	ra−u.ac.jp)	を利用してください。	
	学生向け						
40. 教員の実務経験							
について	無し						
41. バリアフリー対応	無し						

42. その他/備考	 無し 	
42. その他/備考	無し	

- 1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
- 2. グレ一部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
- 3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
- 4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2022年度		2. 開講学期	後期前半	
3. 開講学部・学科等 /区分等	全学共通科	· 目	4. 授業形態/授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分/科目分野/科目公分/ 区分等	主題科目		6. DPコード/分野コー ド/科目ナンバリング		
7. 科目名/科目英文	(日本語名)	災害とデータサイエンス			
名/英文併記 	(英文名) Di	saster and Data Science			
8. 副題(日本語•英	(日本語名)	無し			
語)	(英文名) 無	ŧL			
9. 担当教員名(教員	(日本語) 石	塚 正秀			
ローマ字表記)	(ローマ字)]	shizuka Masahide			
10. 時間割コード/申請コード/授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	1		13. 選必区分/単位区 分	なし	
14. 対象学生	1~2年全学	·部	15. 対象年次/区分等 /標準履修年次	1・2年次/全学部	
16. 曜日•時限	なし		17. 講義室		
	自大学	情報リテラシーB		自大学	データサイエンスを活用し
	学生向け			学生向け	た防災・危機管理
					レジリエントな社会の構築
					とコンピューターシュミレー
			19. 関連科目(関連科		ション
18. 履修推奨科目	連携大学	特になし	目コード番号)	連携大学	データサイエンスを活用し
	学生向け			学生向け	た防災・危機管理
					レジリエントな社会の構築
					とコンピューターシュミレー
					ション
20. 授業のキーワード	データサイニ	Lンス、災害、防災・減災			
/英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	Data Science	ce, Disaster, Disaster mitigat	ion		

21. 授業概要	て、災害前(災害が起 ン復旧が求められる。 象データなどは、雨量 星から、可視光線、す る。このようにローカー れ、防災や減災に役 そして現場周辺のユー 活用によって、国や自	学的なデータとしては、災害に関するデータと、それを観測するテクノロジーについとこっていない日常の時点と、災害が起こる直前)と災害後(直後、そしてライフライ事後)という2つのステージでの議論が重要である。「災害前」としては、例えば、気量や温度、湿度、気圧などのデータが各地の気象観測所で集められ、また人工衛情外線、電波などのセンサーを使って地表や地中を観測しデータが収集されていいからワールドワイドにいたる様々なデータを活用し、各種の災害情報が作成さ立てられる。「災害後」としては、被災地に近い定点観測地点や衛星からのデータ、一ザーが発信しているデータなどが避難等に重要である。また、オープンデータの自治体等と住民が連携しながら二次災害の減災に寄与することもできる。本講義で係るデータの活用方法について学ぶ。	Ø
22. 授業の目的及び 主旨/授業科目の主 題		と)社会構築において重要なデータ(常時観測データ、被災地発信データやオープ 活用方法を学び、ハード・ソフトの両面から地域の安全・安心を議論できるようにな	\square
23. 授業の到達目標 /学修課題	2. 災害前におけるデ	おけるデータの活用の違いが何かを説明できる。 一タ活用の事例とその効果について、 自分の言葉で説明できる。 一タ活用の事例とその効果について、自分の言葉で説明できる。	Ø
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール /授 業計画並びに授業及 び学習の方法	第4週 リスクコミュニケ 第5週 ローカルデータ	でみるWater Risk をから見るまちの強み弱み診断と地区防災計画、事業継続計画BCPへの活用 ケーションとデータサイエンス なとデータサイエンス ・助ならびに災害レジリエンスの強化とデータサイエンス	K
27. 授業時間外学習 にかかわる情報	信データやオープン	の作成に関しては、災害時に活用できる重要なデータ(常時観測データ、被災地発データ等)の活用方法、地域の安全・安心への貢献度や重要性等について、文献 どして、独自の考えも展開するようにしてください。自学自習(準備学習 16時間 +	
28. 成績評価の方法と基準	コメントシート50点(到点以上の評価によりなお、期末試験は実施		
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し無し	

30. 受講の条件/先 行科目/受講人数制 限		受講人数制限:あり 香川大学 <u>60</u> 名・徳島大学 <u>10</u> 名・鳴門教育大学 <u>10</u> 名・高知大学 <u>10</u> 名・愛媛大学 <u>10</u> 名				
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ/履修希望学生に求めるもの	e−Learning⊐ もらいます。	e-Learningコンテンツの視聴及び出席確認も兼ねて、授業で学んだ内容を毎週コメントシートにまとめて もらいます。				
	無し					
		書名				
32. 教科書(購入の必 要のある図書)	#L 11 = 1	ISBN	著者名			
文V0000四百/	教科書1	出版社	出版年			
		金額	備考			
		書名	-			
	 参考書1	ISBN	著者名			
	多方音 	出版社	出版年			
		金額	備考			
	参考書2	書名				
33. 教科書・参考書に		ISBN	著者名			
関する補足情報		出版社	出版年			
		金額	備考			
	参考書3	書名				
		ISBN	著者名			
		出版社	出版年			
		金額	備考			
	無し					
34.Web テキスト (URL・説明)		_earning教育支援センター[a−e.itc.kagawa−u.ac.jp∕	四国(知プラ)ウェブサイト		\square	
			36. 資格等/本科目受			
35. パソコン必要度	必要		講が必要となる資格等	教職・その他()		
			/資格取得該当科目			
37. 教員相互参観授 業公開日程						
	自大学 学生向け	担当教員の電子メール(d	scm-saigai-c@kagawa-u.ac.j	p)を利用してください。	\square	
38. オフィスアワー	連携大学	(Skype等webで対応できる		、ナ 和田! マルシ.		
	学生向け	担当教員の電子メール(dscm-saigai-c@kagawa-u.ac.in)を利用してください。				

39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用メール	自大学	担当教員の電子メール(dscm-saigai-c@kagawa-u.ac.jp)を利用してください。	
	学生向け		
	連携大学	担当教員の電子メール(dscm-saigai-c@kagawa-u.ac.jp)を利用してください。	
	学生向け		
40. 教員の実務経験			
について	無し		
41. バリアフリー対応			
	無し		
42. その他/備考	無し		